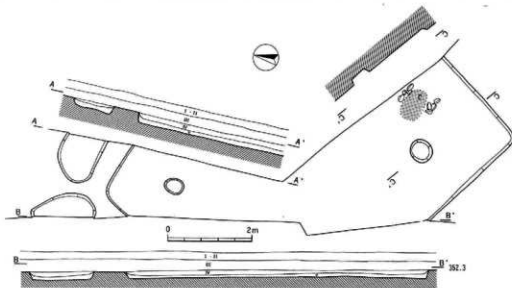


4 平安時代の遺構と遺物

1号住居址

遺構 (109・110図) B調査区の西端に位置し、単独検出遺構であるが、北西隅部の変形やカマドの形態・位置等から2軒重複の可能性がある。形態は長軸間8.0m・南北軸間6m前後、深さ20cm程の規模の長方形を呈するものと思われる。カマドは東壁南寄りに構築されているが、東壁より80cm程内側にある。形態は石芯両袖形のもので、調査では石材と主軸に対しやや西に振る椀形火床焼土を確認した。柱穴は南東隅、北西隅付近より各1個検出され、4個方形配列を予想する。

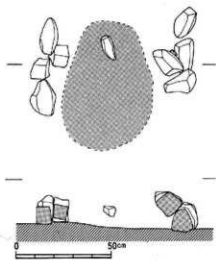
遺物 出土量は少なく、図上復元可能な破片は出土していない。器種には土師器杯・甕、須恵器蓋・杯・高台付杯・甕がある。杯類の底部は糸切離痕を残す。甕の体部調整は上半がナデ、下半がヘラケズリによっている。



109図 1号住居址実測図



III-43 1号住居址

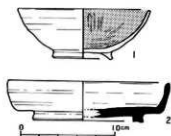


110図 1号住居址カマド実測図

5号住居址

遺構 (112・113図) A調査区の北側に位置し、7-イ号住居址と重複関係にある。規模等は不明であるが方形を呈するものと思われ、掘り込みは21cmを測る。カマドは南壁中央に構築され、石芯両袖形のものである。

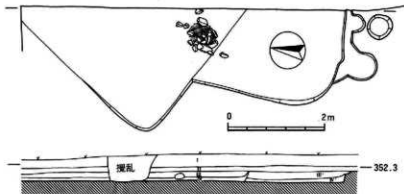
遺物 (111・186図) 出土量は少ない。器種には土師器杯(1)・甕、須恵器蓋・高台付杯(2)・甕がある。このほか鉄製釘(4)が出土している。



111図 5号住居址出土土器実測図



113図 5号住居址カマド実測図



112図 5号住居址実測図

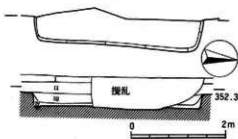


III-44 5号住居址カマド

6号住居址

遺構 (114図) B調査区の西端に位置し、東壁側一部を検出したにすぎない。形態は一边3.6m前後の方形を予想する。掘り込みは28cmを測り、床面は平坦で軟弱である。カマド・柱穴等の住居施設は確認できなかった。

遺物 出土量は少なく、岡上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕がある。杯の底部は糸切離痕を残す。

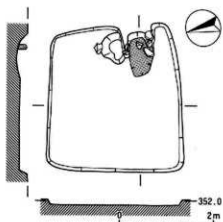


114図 6号住居址実測図

9号住居址

遺構 (115・117図) B調査区の西側に位置し、単独検出遺構で全面を露呈した。形態は西壁の長い不整形方を呈する。長軸3.12mの規模で、掘り込みは12cmを測る。カマドは東壁南寄りに構築された石芯両袖形のもので、深さ5cm程の火床ピットになる。左側に貯蔵穴がある。床面は平坦で軟弱である。土器はカマド右側、南壁下より多く出土した。

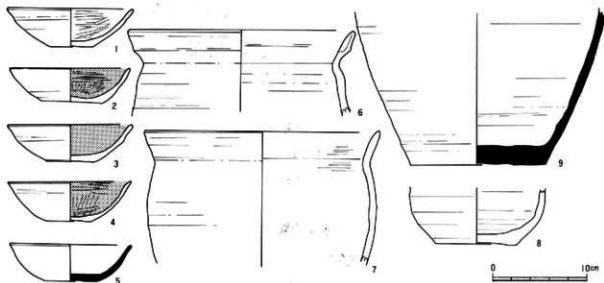
遺物 (116図) 出土量は少ない。器種には土師器坏(1~4)・甕(6~8)、須恵器蓋・坏(5)・甕(9)、灰釉陶器碗がある。坏はロクロ調整であるが、土師器の内面はヘラミガキが施こされ、2~4には黒色処理される。6・7の体部上半より口縁部にかけてロクロ調整で、8は全面に及ぶ。体部下半はヘラケズリ調整である。



115図 9号住居址実測図



III-45 9号住居址

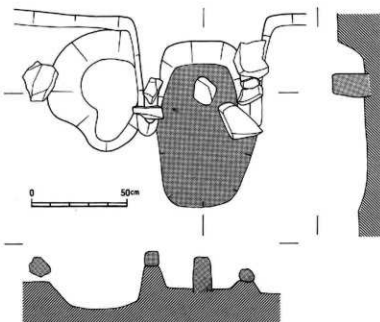


116図 9号住居址出土土器実測図

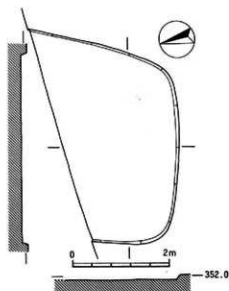
11号住居址

遺構(118図) B調査区の西側にあり、単独検出遺構であるが、北側半分程は調査区域外にある。形態は東壁が張り出し、一辺4m前後の隅丸方形を予想する。掘り込みは8cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマド・柱穴等の住居施設は確認できなかった。

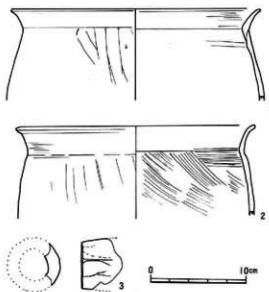
遺物(119図) 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕(1・2)、須恵器甕がある。このほかに羽口(3)が出土している。甕の外面調整はヘラケズリ様ナデで、2の内面にはハケ調整痕がある。杯はロクロ調整である。



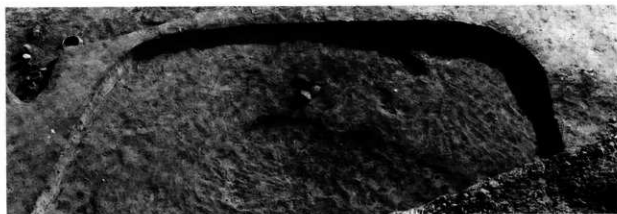
117図 9号住居址カマド実測図



118図 11号住居址実測図



119図 11号住居址出土土器実測図

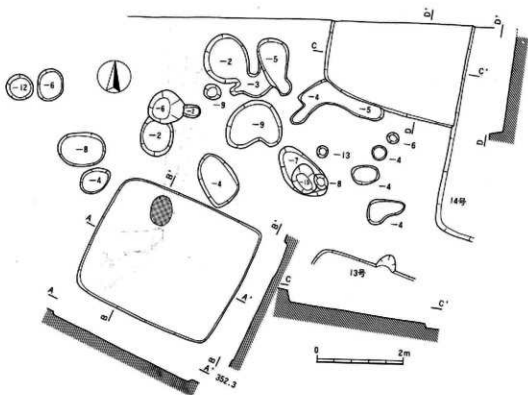


III-46 11号住居址

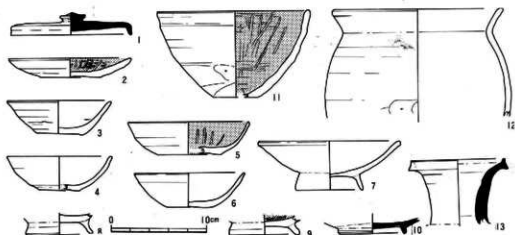
12号住居址

遺構 (120図) B調査区の西側に位置し、古墳時代の20号住居址と重複関係にあるが、単独検出遺構である。形態は隅丸長方形を呈し、主軸3.08m・東西軸3.6m・深さ8cmの規模になる。床面は平坦で軟弱である。カマドは北壁西寄りに構築されていたものと思われ、調査では長軸70cm・短軸50cm・深さ3cm程の火床焼土を検出した。遺物はこの周辺からのものが多い。

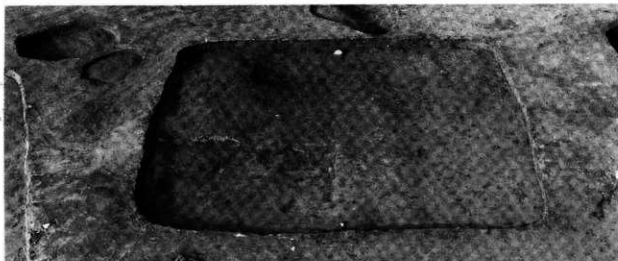
遺物 (121・186図) 出土量は図上復元した割には多くない。器種には土師器皿 (2)・杯 (3~6)・座 (7~9)・鉢 (3~6)・甕 (12)、須恵器蓋 (1)・細口瓶、灰釉陶器碗 (10) がある。杯類の外周はロクロ調整痕が残るのに対し、内面はヘラミガキが施こされ、2・5・11は放射状暗文が付され、2・5・9・11は黒色処理される。ロクロからの切離は糸による。甕の調整もロクロによっている。このほか泥岩製砥石 (17) が出土している。



120図 12号 (下)・22号 (上) 住居址、ビット群2実測図



121図 12号住居址出土土器実測図

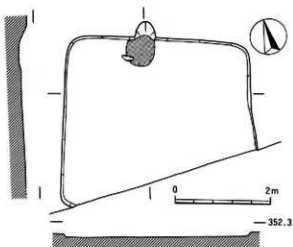


III-47 12号住居址

13号住居址

遺構(122図) B調査区の西側に位置し、単独検出遺構であるが、南壁側一部は調査区域外にある。形態は東壁中位がやや張り出すが方形を呈するものと思われる。主軸は3.7m前後と推定され、東西軸より短い。掘り込みは10cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドは北壁西側に構築され、調査では煙道の一部及び長軸63cm・幅60cm・深さ6cmの火床焼土を検出したにすぎず、形態は不明である。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕がある。これらはロクロにより仕上げられるが、甕の体部下半はヘラケズリ調整である。



122図 13号住居址実測図

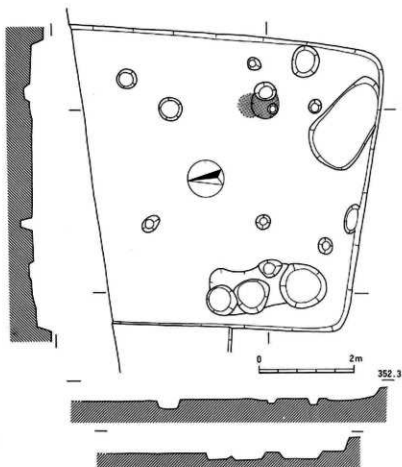


III-48 13号住居址

14号住居址

遺構 (123・124図) B調査区の西寄りに位置し、22号住居址と重複関係にあり、北壁側は調査区域外へ延びる。形態は南壁がやや張り出すが隅丸長形を呈するものと思われる。東西軸間6.2m程で、長軸は7m前後が推定される大形の遺構である。掘り込みは27cm程になる。床面は東西間が鍋底状を呈し、堅緻で良好なものである。カマドの痕跡は確認できなかったが、南東隅付近に直径50cm程の火床焼土とピット及び周辺から炭化物の堆積が認められた。柱穴は大小15個検出され、主柱穴は南壁に並行する大形のものの2個と考えられ、4個方形配列と予想する。南東隅に長軸2.1m・短軸1.12m・深さ5cm程の土坑があり、ここから坏類を中心とする土器が集中して出土し、また西壁添い柱穴を伴う土坑からもこの傾向がうかがえた。

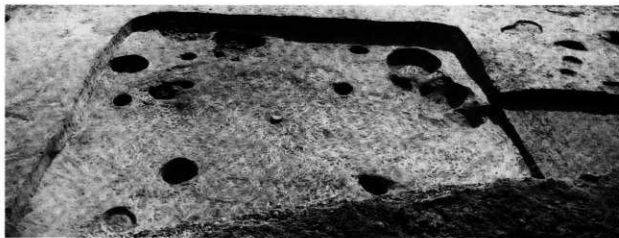
遺物 (125・126図) 坏類を中心に多く出土し、それも完形品が多い。南壁下の土坑からは、須恵器蓋 (1・2)、土師器蓋 (3)・坏 (4~34)・甕 (35~44)・甕 (45) がある。その他の出土として、土師器坏 (47~64)・甕 (65~84)・鉢 (85)・甕 (88・89)、須恵器壺 (90)、灰釉



123図 14号住居址実測図



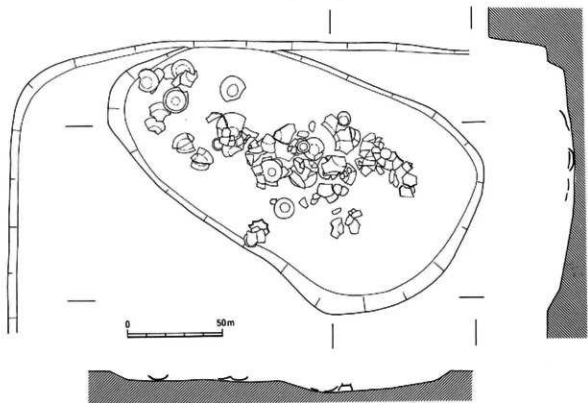
III-49 14号・22号住居址



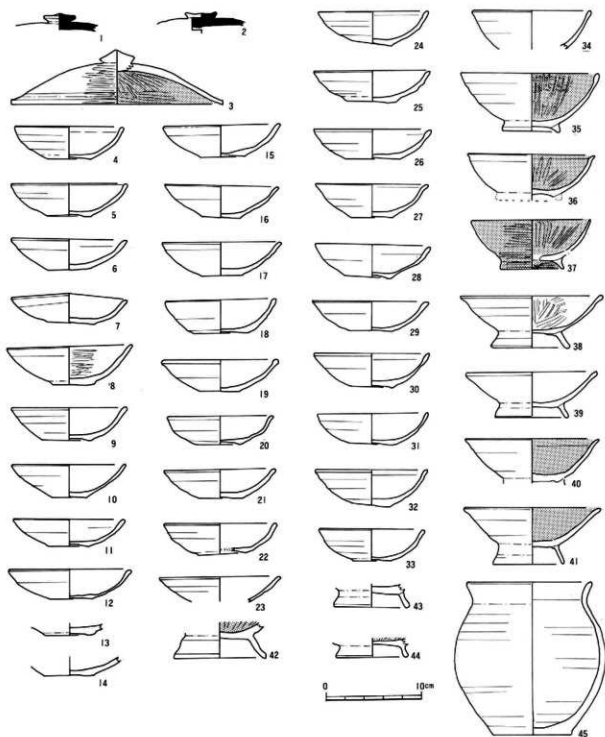
III-50 14号住居址



III-51 14号住居址土坑



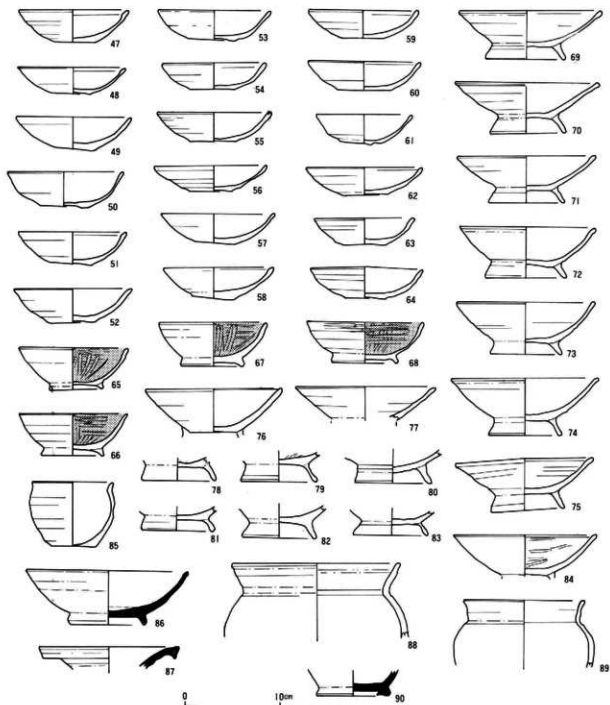
124图 14号住居址土坑内土器出土状态实测图



125図 14号住居址土坑内出土土器実測図

陶器片 (86)・長頸瓶 (87) がある。杯はロクロ成形を基本としロクロ目を残す。8の内面はヘラミガキが施こされる。土師器碗のうち高台の低い小形のを主に内面にヘラミガキが施こされ、放射状暗文を付す。大形のは木器を模倣したものと推定され、高脚高台が付され、杯部は皿形になる。35・36・40~43・65~68の内面は黒色処理が施こされる。甕は小形のものでロクロ成形によっており、全面にロクロ目を残す。45の体部下に墨書がある。

III-52
14号住居址土坑内
土器出土状貌

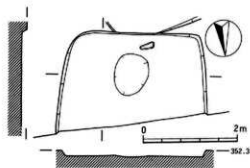


126图 14号住居址出土土器实测图

15号住居址

遺構 (127図) B調査区の西端近くにあり、古墳時代の8号住居址と南壁で重複関係にあり、北側半分程は調査区域外へ延びる。形態は東壁がやや張り出すが一辺3m前後の方形を呈するものと思われる。掘り込みは16cmで、床面は平坦で軟弱である。南側中央に焼土及び炭化物が認められた。

遺物 出土量は少なく、図上復元できるものはない。器種には土師器杯・甕、須恵器蓋・高台付杯がある。



127图 15号住居址実測図

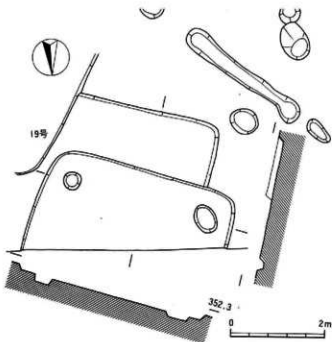


III-53 15号住居址

17号住居址

遺構 (128図) B調査区の中央付近にあり、27号住居址と重複関係にある。北側3分の2程は調査区域外にある。形態は東・西壁が若干内弯気味であるが、一辺4m前後の方形を呈するものと思われる。掘り込みは15cm程を測り、床面は平坦で軟弱である。カマドの痕跡は確認できなかった。南壁両隅に支柱穴と思われるピットがある。4個方形配列になるものと思われる。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕、須恵器杯・高台付杯・甕がある。杯の底部外面にはロクロからの糸による切離痕を残す。甕は大小2種があり、小形のはロクロ成形で、大形のは体部上半はロクロ調整、下半はヘラケズリで仕上げる。

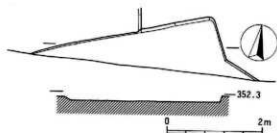


128图 17号(下)・27号(上)住居址実測図

18号住居址

遺構 (129図) B調査区の西側にあり、8号住居址と重複関係にあり、また東壁の折れ状態から他遺構と重複している可能性がある。規模等は不明であるが方形を呈するものと予想する。掘り込みは13cmを測る。

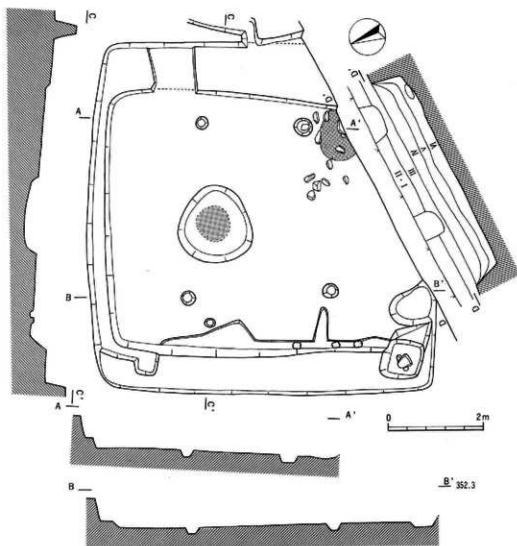
遺物 器種の判明するものは土師器杯・甕がある。



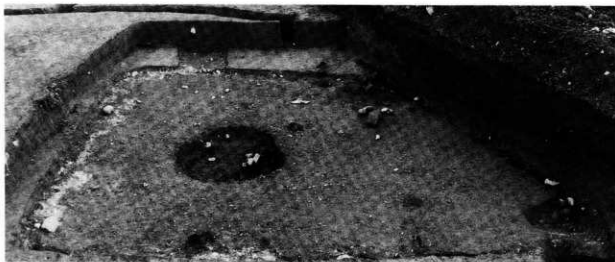
129図 18号住居址実測図

19号住居址

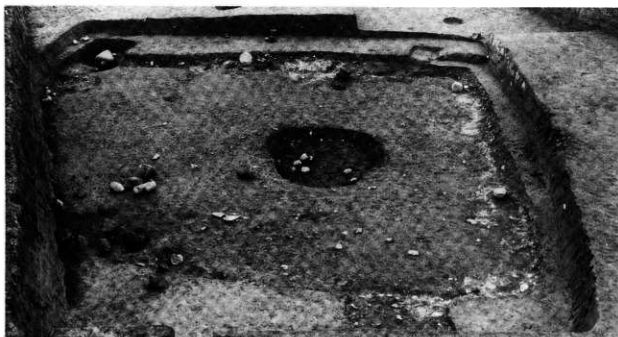
遺構 (130図) B調査区の中央に位置する遺構群の一つで、23号・27号・34号・35号住居址と重複関係にあり、中で最も新しい。形態は方形の住居址内へ長方形のものが入れ子状になる。2軒の住居址の重複とも考えられる。外縁の掘り込みの規模は一边7.5m前後の大形のもので、深さ47cmを測る。長方形のものは主軸5.5m・南北軸7m前後で外縁の掘り込みより更に10~20cm程深くなる。床面はほぼ平坦で礎が露出する。カマドは長方形のものに認められ、南東隅付近に構築され、石芯製のもので石材・火床焼上・炭化物が散在していた。また中央北寄りに最大幅1.6m・深さ20cm程の不整形形の落ち込みがあり底面より焼土が認められた。西壁に添って周溝



130図 19号住居址実測図



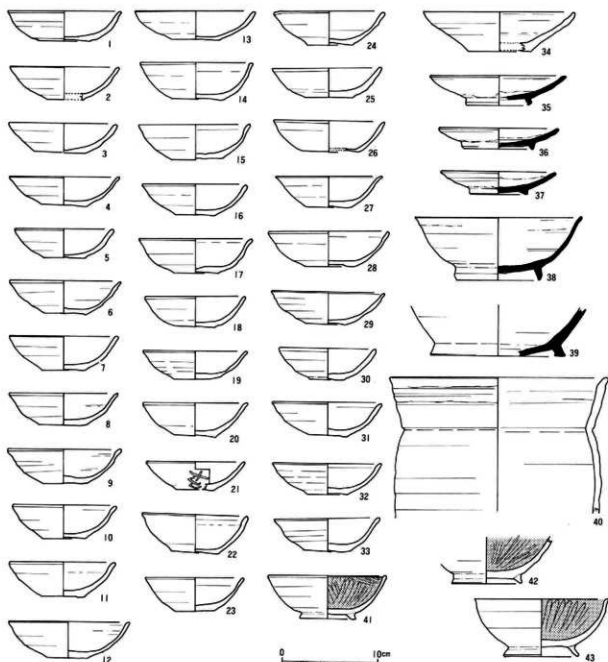
Ⅲ-54 19号住居址 (西より)



Ⅲ-55 19号住居址 (東より)



Ⅲ-56 19号住居址カマド



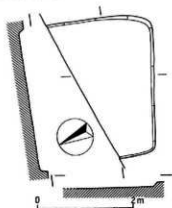
131図 19号住居址出土土器実測図

状の溝、南西隅に方形と不整形円形を呈する土坑が掘られている。主柱穴は直径30cm程の小さなビット4個をあて
る。遺物はカマド周辺・方形土坑より多く出土した。

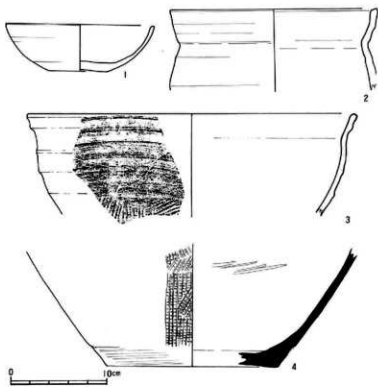
遺物 (131図) 出土量は灰埴を中心に比較的多い。器種には土師器杯(1~34)・碗(41~43)、須恵器壺
(39)・甕、灰軸陶器皿(35~37)・碗(38)、緑軸陶器碗がある。杯は皿形を呈し、ロクロ成形で、底部外面
に糸切離痕を残す。口縁端部が外反するものと素直に体部から立ち上がるものがある。碗は低い高台が付され、
外面にロクロ痕を残し、内面はヘラミガキが施こされ、放射状暗文が描かれ、黒色処理される。灰軸陶器はつけ
掛けである。甕の出土量は少ない。40は口縁部の外反度が弱く、最大径を端部に有し、体部の張りが少ない器形
で、全面にロクロ調整痕を残す。須恵器の甕は大形のもので、外面に平行タタキ目を残す。緑軸陶器は胎土が灰
黒色緻密で深緑色を呈する。

21号住居址

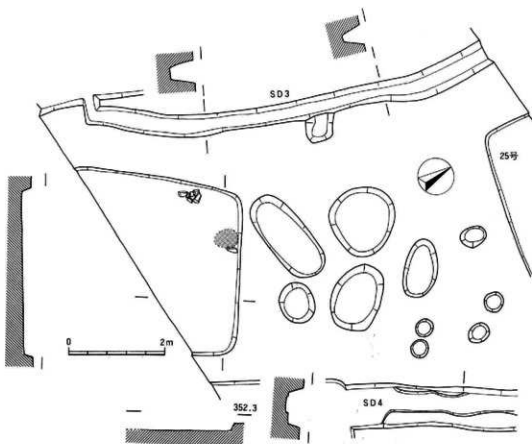
遺構(132図) B調査区の中央付近に位置し、単独検出遺構であるが北側半分程は調査区域外にある。形態は一辺3m前後の方形を呈するものと思われる。掘り込みは17cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドの痕跡は確認されない。



132図 21号住居址実測図



133図 21号住居址出土土器実測図



134図 23号住居址、3号溝址、ピット群4実測図

遺物 (133図) 出土量は少ない。器種には土師器坏(1)・甕・鉢(3)・甕(2)、須恵器四耳壺(4)、灰釉陶器境がある。3の体部下半はタタキ調整で、上半はロクロによっている。4にもタタキ目が残る。

22号住居址

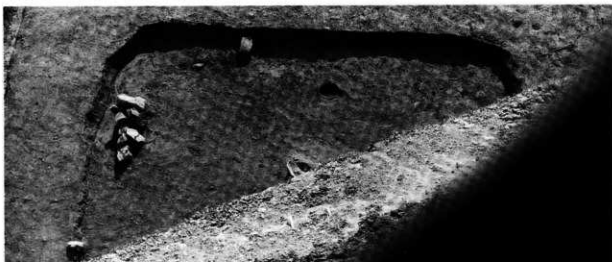
遺構 (120図) B調査区の西側にあり、14号住居址に掘り込まれる。北側半分は調査区域外にある。規模等は不明であるが隅丸方形を呈するものと思われる。掘り込みは30cm程になる。カマドの痕跡は確認されない。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能なものはない。器種には土師器坏・甕、須恵器蓋・坏・甕がある。

23号住居址

遺構 (134図) B調査区の東側に位置し、34号住居址と重複関係にあり、これよりも新しい。形態は東西軸間3.55mを測り、主軸がやや長くなる長方形を予想する。カマドは北壁西寄りに構築され、火床焼土を残す。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能なものはない。器種は土師器坏・甕、須恵器蓋・甕がある。

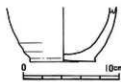


III-57 23号住居址

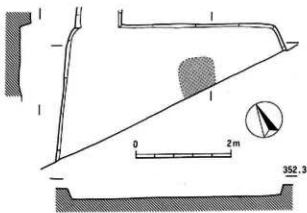
24号住居址

遺構 (136図) B調査区の東側に位置し、4号溝址と重複し、南側半分以上は調査区域外にある。形態は一辺4.6m前後の方形を呈するものと思われる。掘り込みは20cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドの痕跡はないが、中央北寄りに焼土を伴う炭化物が認められた。

遺物 (135図) 出土量は少ない。器種には土師器坏・甕・鉢、須恵器蓋・四耳壺・甕、灰釉陶器境がある。図示した甕は小形のものでロクロ成形され、底部外面に糸切離痕を残す。大形のものには体部上半がロクロ調整、下半はヘラケズリが施こされる。



135図 24号住居址出土器実測図

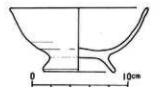


136図 24号住居址実測図

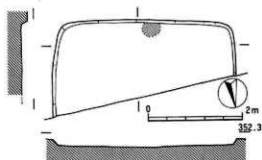
25号住居址

遺構(138図) B調査区の東側に位置し、単独検出遺構であるが北側半分以上は調査区域外にある。形態は一辺3.9m前後の方形を呈するものと思われ、掘り込みは検出面から15cmを測る。床面は中央が凹む鍋底状を呈し、軟弱である。カマドは南壁中央に構築されていたであろうが直径40cm程の範囲に焼土が認められた。

遺物(137図) 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕、須恵器壺がある。図示した甕は高脚高台が付され、体部は内湾する。内面はヘラミガキである。



137図 25号住居址出土土器実測図



138図 25号住居址実測図

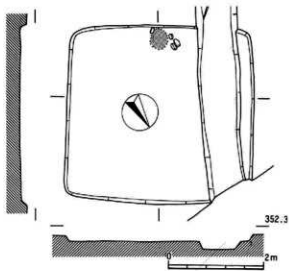
26号住居址

遺構(140図) B調査区の東側に位置し、4号溝址と重複する。形態は一辺3.8m前後の方形を呈する。掘り込みは13cmで、床面は平坦で軟弱である。カマドは南壁中央に構築され、火床焼土及び構築石材が散在していた。

遺物(139図) 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕、須恵器蓋・杯・甕(1)、灰釉陶器甕(2)がある。1は大きく外開する口縁部で、ヘラ描き斜行短線文が3段以上めぐる。



139図 26号住居址出土土器実測図



140図 26号住居址実測図

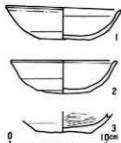


III-58 26号住居址

27号住居址

遺構(128図) B調査区の中央付近に位置し、17号・19号住居址と重複関係にある。北壁側は調査区域外にある。形態は一边4m前後の方形を予想する。掘り込みは20cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドの痕跡は確認できない。

遺物(141図) 出土量は少ない。器種には土師器坏(1~3)・甕・羽釜、須恵器高台付坏・蓋・甕、灰釉陶器瓶がある。坏はロクロ成形であるが、内面はヘラミガキが施こされ、底部外面に糸切難痕を残す。



141図 27号住居址出土土器実測図

30号住居址

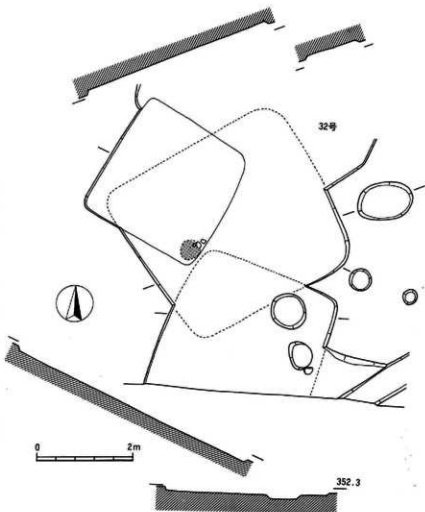
遺構(27図) B調査区の東端にあり、形態は一边5.4mの方形を予想する。掘り込みは20cm程で、床面は平坦で礫が浮く。

遺物 土師器坏片がある。

31号住居址

遺構(142図) B調査区の東端の遺構群の一つで、32号・47号住居址と重複関係にあり、これらより新しい。形態は一边2.72mの方形を呈する。掘り込みは5cm程で、床面は東傾斜し、軟弱である。カマドは南東隅に構築され、火床焼土・構築石材が残存していた。

遺物(143図) 出土量は少ない。器種には土師器坏(1)・甕(2)がある。1の内面はヘラミガキ後黒色処理される。2は内外面ともにロクロ調整である。

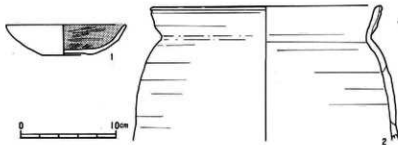


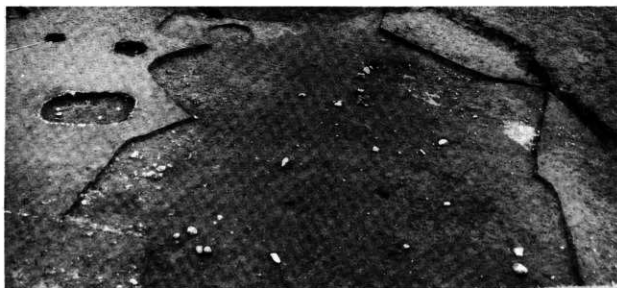
142図(上)

31号(上)・47号(中)・28号(下)住居址、ビット群5実測図

143図(下)

31号住居址出土土器実測図

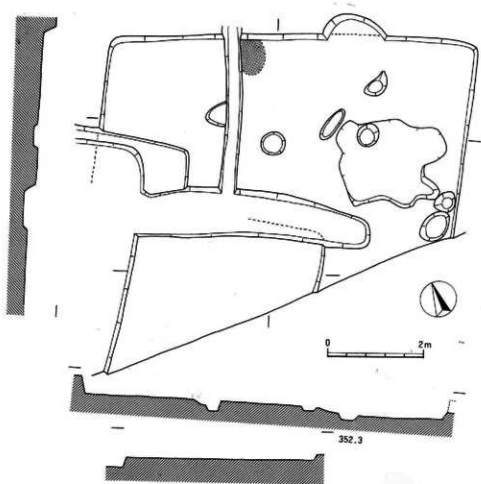




III-59 31号住居址周辺の重複関係遺構

34号住居址

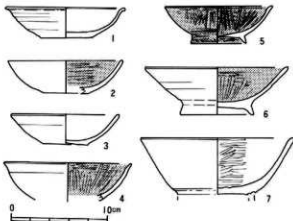
遺構(144図) B調査区の東側に位置し、19号・23号住居址、3号溝址により掘り込まれ、35号住居址を内包する。南壁付近は調査区域外にある。形態は一辺7.7m前後の方形を呈するものと思われる。掘り込みは深く



144図 34号(上)・35号(下)住居址実測図

35cmを測る。床面は平坦で軟弱であり、東壁側に不整形の落ち込みがみられた。カマドの位置は不明であるが北壁西寄りに火床焼土が認められた。

遺物 (145図) 出土量は多くない。器種には土師器杯(1~4)・甕(5~7)・甕、須恵器杯・甕がある。土師器杯類はロクロ成形後、外面にはロクロ目を残すのに対し、内面はヘラミガキが施こされる。4~6には放射状暗文が付され、黒色処理される。5は内外面ともにヘラミガキで、黒色処理される。7は高脚高台が付されるであろう。



145図 34号住居址出土土器実測図

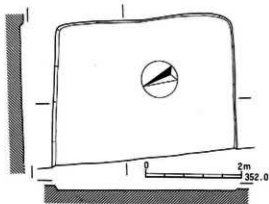


III-60 34号住居址

39号住居址

遺構 (146図) C調査区の中央付近にあり、40号住居址と隣接する。西壁側一部は調査区域外にある。形態は一辺3.9m前後の方形を呈するものと思われる。検出面からの掘り込みは11cm程である。床面は平坦で中央付近一帯は堅緻である。カマド・柱穴等の施設は確認できない。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕、須恵器蓋・高台付杯・甕がある。杯の底部外面には糸切離痕が残る。土師器甕の外面は上部がロクロ調整で、下部はヘラケズリで仕上げられる。

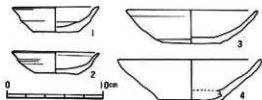


146図 39号住居址実測図

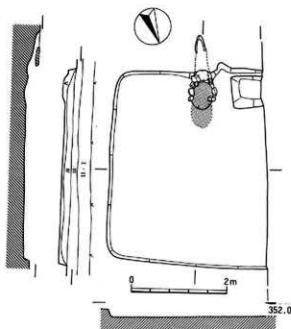
40号住居址

遺構(148図) C調査区の中央付近に位置し、単独検出遺構であるが西壁側一部は調査区域外にある。形態はカマド右側南壁が僅かに張り出すが方形を呈するものと思われる。主軸は4.12mの規模で、掘り込みは19cm程になる。床面は平坦で軟弱である。カマドは南壁中央に構築され、石芯両袖形のものである。煙道は75cm程作り出され、火床は6cmの掘り込みになる。カマド右側に長方形を呈する深さ11cmの貯蔵穴がある。図示した遺物は全てカマド周辺・貯蔵穴からの出土である。

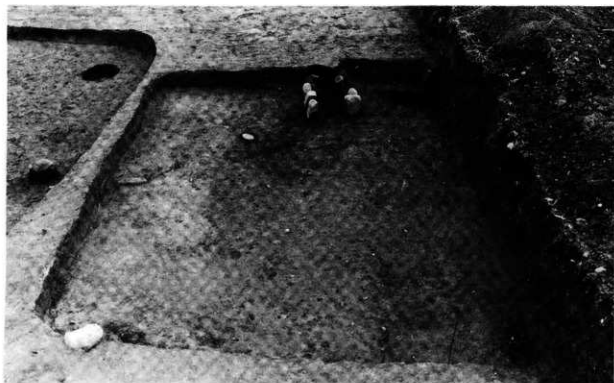
遺物(147図) 出土量は比較的多いがほとんど破片出土である。器種には土師器杯(1~4)・甕、須恵器杯・壺・甕、灰釉陶器碗がある。1・2は小形の皿形のもので、ロクロによる成形である。3・4もロクロ成形であるが、内面にヘラミガキが施こされる。内面黒色処理されたものもある。土師器甕の外面調整はヘラケズリのもが多く、内面にハケナデされたものが混じる。須恵器杯は軟質なもので、底部外面に糸切難痕を残す。



147図 40号住居址出土土器実測図



148図 40号住居址実測図

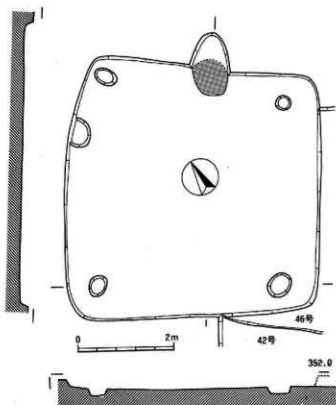


III-61 40号住居址

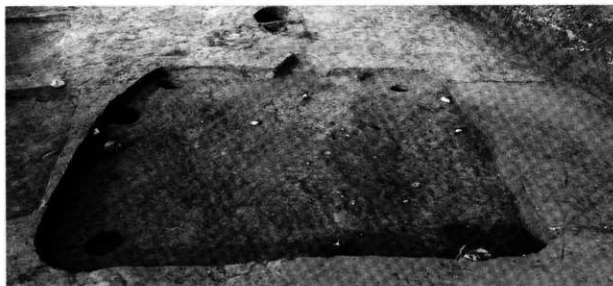
41号住居址

遺構 (149図) C調査区の中央に位置し、42号・46号住居址と重複関係にあり、これらよりも新しい遺構である。形態は北壁が南壁より短かく、西壁が内湾する方形を呈する。主軸5.24m・東西軸間4m・深さ17cmの規模になる。カマドは北壁中央に構築され、調査では突出する煙道と火床焼土を検出したにすぎない。主柱穴は各隅付近に各1個あり、4個方形配列を予想する。床面は平坦で軟弱である。

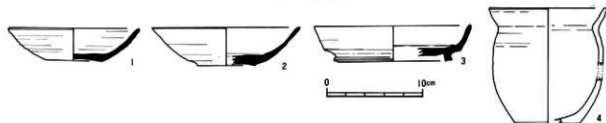
遺物 (150図) 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕 (4)、須恵器蓋・坏 (1・2)・高台付杯 (3)・四耳壺・甕がある。1～3の底部外面は糸切離痕を残す。3は底部外縁を回転ヘラケズリ調整後高台が付される。4はロクロ成形で全面にロクロ目を残し、ロクロからの切離は糸によっている。土師器甕の中には体部中央が張り出し、ヘラケズリを施こし、器内を減ずる武蔵型の甕がある。



149図 41号住居址実測図



III-62 41号住居址

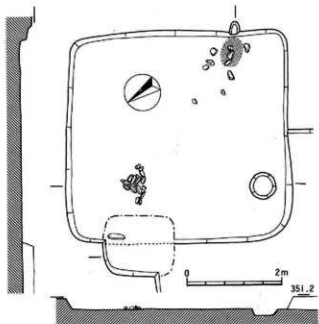


150図 41号住居址出土土器実測図

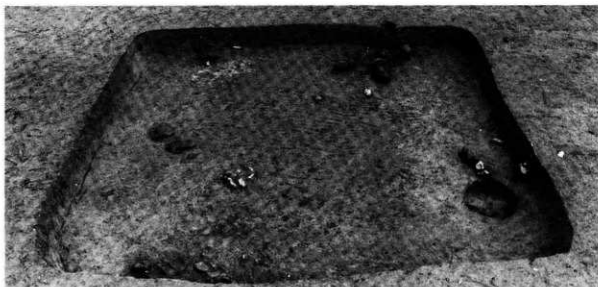
43号住居址

遺構（151図） C調査区の南側に位置し、古墳時代の44号住居址、5号土坑と重複関係にある。形態は主軸4.48m・南北軸間4.84m・深さ23cmの規模の隅丸方形を呈する。床面は平坦で軟弱である。カマドは南東隅付近に構築され、火床焼土及び構築石材が散在していた。北西隅寄りに長軸10～20cm程の細長い自然磯がまとまって検出された。伏等を編む所謂コモデ石と推定する。

遺物（152図） 出土量は少ない。器種には土師器杯（2）・甕（1）・甕、須恵器杯・高台付杯、灰釉陶器鉢（3）・甕がある。1・2の内面はヘラミガキが施こされる。3は白味の胎土に灰釉がつけ掛けられ、薄い緑色を加えた白灰色を呈する。口縁部は内屈しながら立ち上がり、端部は面取りされる。



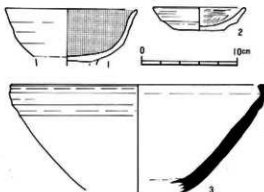
151图 43号住居址、5号土坑実測図



III-63 43号住居址



III-64 43号住居址集石

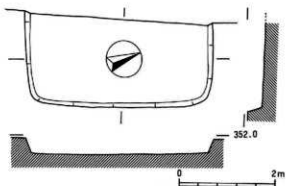


152图 43号住居址出土土器実測図

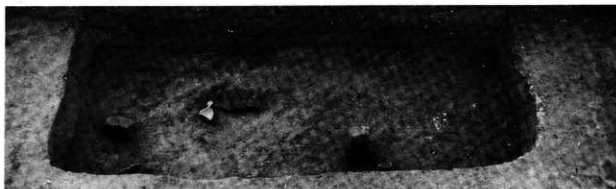
45号住居址

遺構 (153図) C調査区の中央に位置し、単独検出遺構であるが、西側半分程は調査区域外にある。形態は一辺4m程の方形になるであろう。掘り込みは32cmで、床面は平坦で軟弱である。

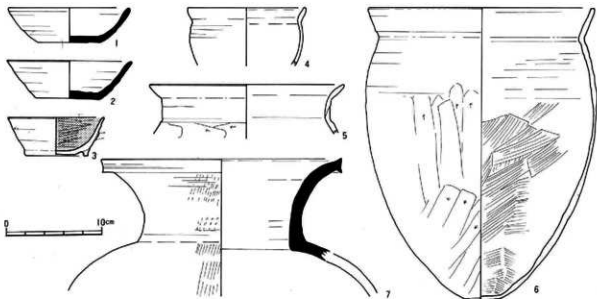
遺物 (154図) 出土量は少ない。器種には土師器坏・甕 (3)・鉢 (4)・甕 (5・6)、須恵器坏 (1・2)・甕 (7)、灰釉陶器瓶がある。3は内面がヘラミガキされ黒色を呈し、外面に把手がつく。



153図 45号住居址実測図



III-65 45号住居址



154図 45号住居址出土器実測図

47号住居址

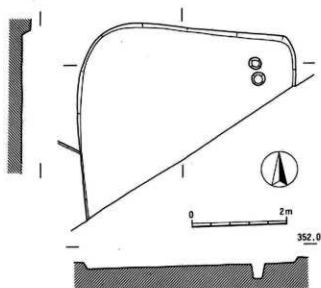
遺構 (142図) B調査区の東端に位置し、28号・31号・32号住居址と重複関係にある。形態は長軸4.6m・南北軸間4.08mの隅丸長方形になるものと思われる。検出面から掘り込みは6cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマド・柱穴等住居施設等は確認できなかった。

遺物 出土量は10数点あるにすぎない。器種には土師器坏・甕がある。

48号住居址

遺構 (155図) E調査区の西端近くに位置し、49号住居址と重複関係にある。南半分は調査区域外にある。形態は北西隅が丸くなる不整形を呈する。南北軸の規模は不明であるが、東西軸間4.58mを測る。掘り込みは17cm程で、床面は平坦であるが軟弱である。北東隅に小ピット2個検出されたが、他隅にはない。

遺物 出土量は少なく図上復元可能なものはない。器種には土師器杯・甕、須恵器甕がある。

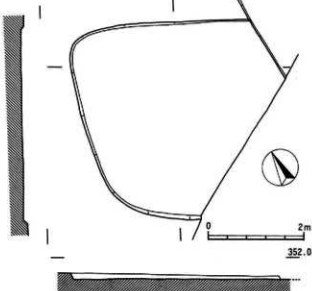


155図 48号住居址実測図

49号住居址

遺構 (156図) E調査区の西端に位置する。形態は西壁が大きく張り出す不整形丸方形を呈する。南北軸間4.16mの規模で、12cm程の掘り込みである。床面は平坦で軟弱である。カマド等の施設の痕跡はない。

遺物 (157図) 出土量は少なく、小破片が多い。器種には土師器杯(1.2)・甕(3)、須恵器蓋・杯・甕、灰軸陶器瑣がある。



156図 49号住居址実測図

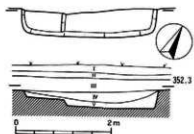
50号住居址

遺構 (158図) E調査区の西側にある。東壁派いのみを検出であるが、方形の形態を予想する。床面は2段になる。東西軸間2.87mを測る。

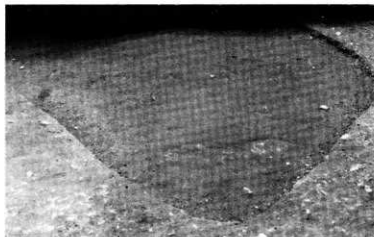
遺物 少量出土しているにすぎず、土師器杯・甕、須恵器甕片で図上復元できるものはない。



157図 49号住居址出土土器実測図



158図 50号住居址実測図

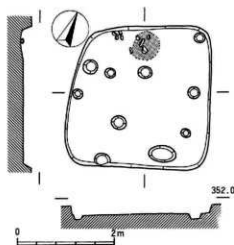


III-66 49号住居址

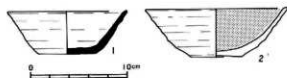
52号住居址

遺構 (159図) E調査区の西側に位置し、単独検出遺構であるが上面及び周辺にピット群7がある。近隣遺構に7号・8号土坑、56号住居址がある。形態は南壁に対し北壁が短いため、西壁が内湾する不整隅丸方形を呈する。規模は主軸・東西軸とも2.96m・深さ17cm程になる。床面は平坦で軟弱である。カマドは北壁中央に構築され、調査では火床焼土及び構築石材の残存を検出したにすぎない。住居址内に10個の柱穴様ピットがあるが、ピット群7との関連から当該住居址に付属するか不明であり、配列形態をなすものはない。

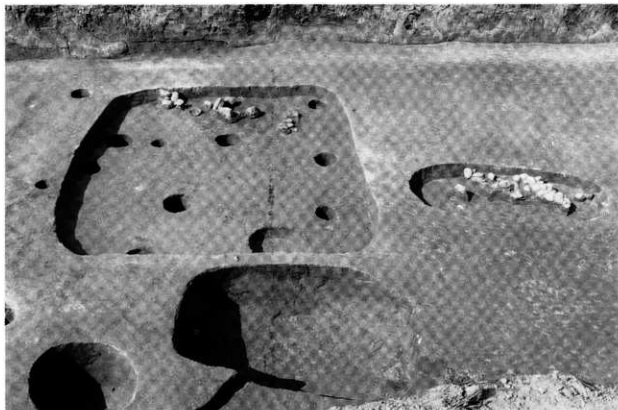
遺物 (160図) 出土量は少ない。器種には土師器杯(1・2)・甕、須恵器杯・甕、灰釉陶器碗がある。杯のロクロからの切離は糸によっており、内面はヘラミガキが施こされ、2は黒色処理される。土師器甕の外面はヘラケズリが施こされ、器壁を薄く仕上げる。



159図 52号住居址実測図



160図 52号住居址出土土器実測図



III-67 52号住居址、7号(下)・8号(右)土坑

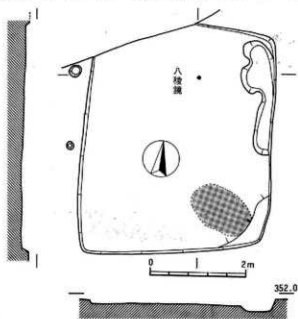
53号住居址→26号土坑

当初平安時代の所産と考え取り扱ったが、形態や遺物の再検当から中世の26号土坑に変更する。

54号住居址

遺構(161図) E調査区の西側に位置し、単独検出であるが北西隅一部が調査区域外にある。形態は東壁に対し南壁が長い台形状を呈し、長軸4.78m・東西軸間3.94mの規模である。検出面からの掘り込みは14cm程で、床面は南・東へ傾斜し軟弱である。カマドは明確に確認できなかったが、南東隅に若干の高まりがありその凹部に焼土・炭化物が確認され、この周辺のみ角礫が散在していたことから、カマドの廃絶状態と推定する。尚、炭化物は床直上はほぼ全面に認められ、炭化材はなかったものの火災を受けた可能性がある。東壁北寄りに壁に添って不整形の掘り込みがある。遺物はカマド推定地周辺及び中央東寄りから多く出土しており、特に後者は床面から2～数cm浮いた状態で検出された。正位出土のものと同位のものがあり落下による現象であろうか。

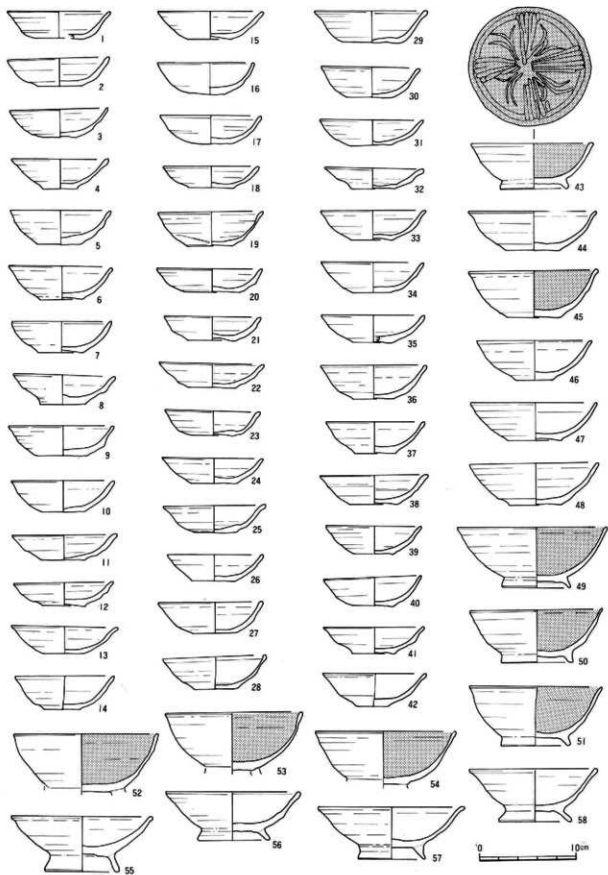
遺物(162・163・186図) 坏類を中心に多く出土し、完形に近いものが多い。器種には土師器坏(1～42・44～48)・糜(43・49～68)・甕・羽釜(74～76)、須恵器蓋・坏(71・72)、甕、灰釉陶器皿(69・70)・細口瓶(73)がある。須恵器は極く少量で、破片出土であるので混入品の可能性が高い。土師器坏は皿形に近い小形のもの主流を占め、形態が様々ある。この土器群の中で注意したいのは、底部両面に糸切離痕を有する所謂底部柱状づくりのものがある点である。32からはそれが推定観察でき、16の底部成形・調整からもうかがえる。この技法から成形されたと思われるものはその特色を底部が突出し明瞭なものを予想する。糜にも2形態に大別でき、高台が低く体部に丸味を帯びるもので、内面にていねいなヘラミガキが施さされ黒色処理されるもの(43・49～54)と高脚高台が付され皿形で、口縁部が外反するもの(55～68)がある。43は暗文で加飾される。このほか、馬具の鍔金具・鉸具



161図 54号住居址実測図

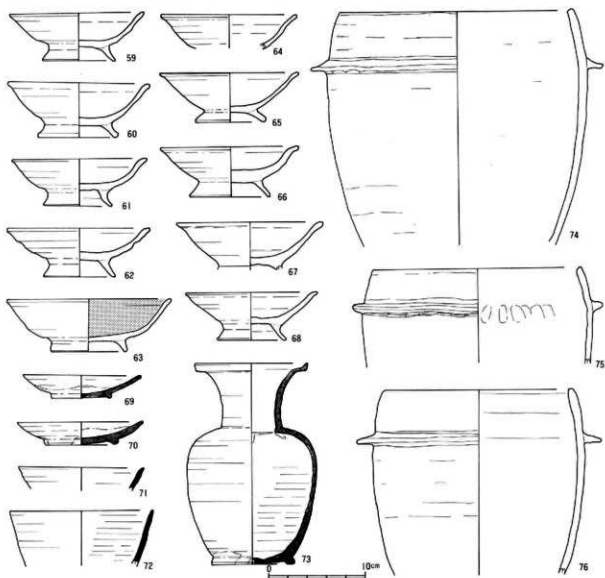


III-68 54号住居址



162图 54号住居址出土土器实测图

(6)が南西隅、鉄製紡錘車(7・8)が西壁中央付近から出土している。八稜鏡(18)は北壁寄り中央付近からのもので、図柄は明瞭でない。



163図 54号住居址出土土器実測図



III-69 54号住居址遺物出土状態

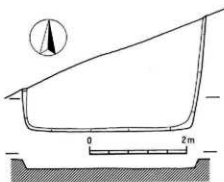
56号住居址

遺構 (165図) E調査区の西側に位置し、単独検出遺構であるが北側半分程は調査区域外にある。形態は一辺3.7m前後の方形を推定する。掘り込みは17cm程で、床面は平坦で軟弱である。

遺物 (164図) 出土量は少なく、小破片である。器種には土師器杯(2)・甕、須恵器蓋(1)・杯・甕がある。2はロクロ成形であるが、内面はヘラミガキが施こされ黒色処理される。



164図 56号住居址出土土器実測図

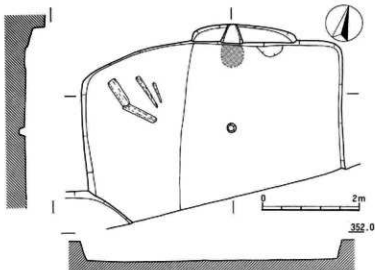


165図 56号住居址実測図

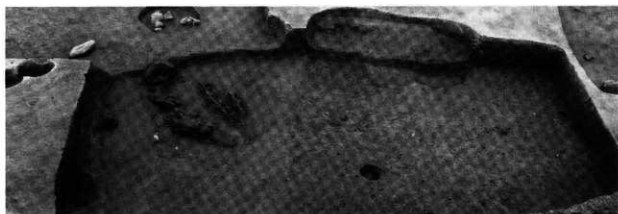
57号住居址

遺構 (166図) E調査区の中央付近に位置し、66号住居址、13号土坑と重複関係にある。形態は南北軸が長く、東西軸間3.4mを測る長方形になるものと思われる。掘り込みは30cm程で、床面は黒褐色粘質土の貼り床になり堅緻である。カマドは北壁中央西寄りに構築され、火床焼土・煙道を残す。

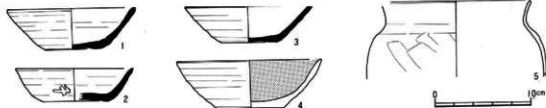
遺物 (167図) 出土量は少ない。器種には土師器杯(4)・甕(5)、須恵器杯(1~3)・甕がある。4の内面は黒色処理される。



166図 57号(右)・66号(左)住居址、13号土坑実測図



III-70 57号(右)・66号(左)住居址

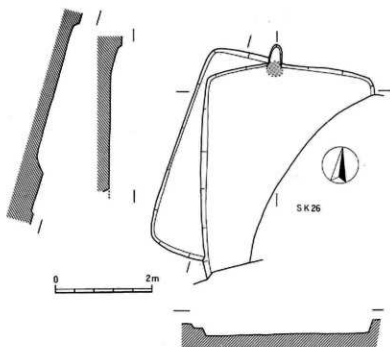


167図 57号住居址出土土器実測図

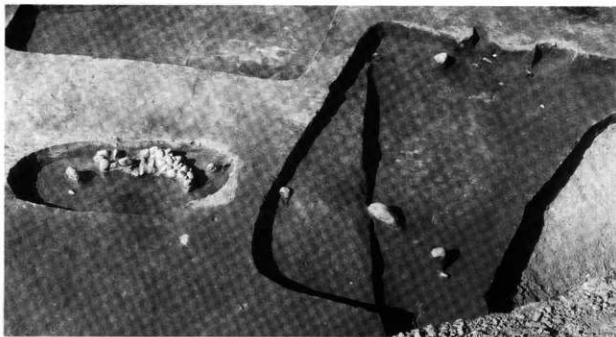
60号住居址

遺構（168図） E調査区の中央付近に位置し、59号住居址を切り込み、26号土坑に南東部を掘り込まれる。形態は主軸が長く、東西軸間3.6mを測る長方形を呈する。壁高は28cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドは北壁西寄りに構築されるが、調査では煙道及び火床焼土・炭化物・小礫を検出したにすぎない。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕、須恵器蓋・杯・甕がある。土師器杯は糸切離痕を残し、内面が黒色処理される。甕の外面の調整はヘラケズリによっている。



168図 59号（左）・60号（右）住居址実測図



III-71 59号（左）・60号（右）住居址、8号土坑

65号住居址

遺構（7図） E調査区の東側遺構群の一つで、南壁は59号・60号住居址と、西壁は56号住居址と重複関係にあり、また北側は調査区域外に延びているため、東壁付近のみ検出したにすぎない。形態・規模等は不明である。東壁の掘り込みは18cmを測り、床面は平坦で軟弱である。調査範囲からカマド等の施設は確認されない。

遺物（169図） 器形の判明するものは土師器碗1点にすぎない。内面に放射状暗文が加飾される。

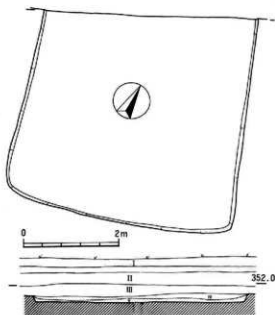


169図 65号住居址出土土器実測図

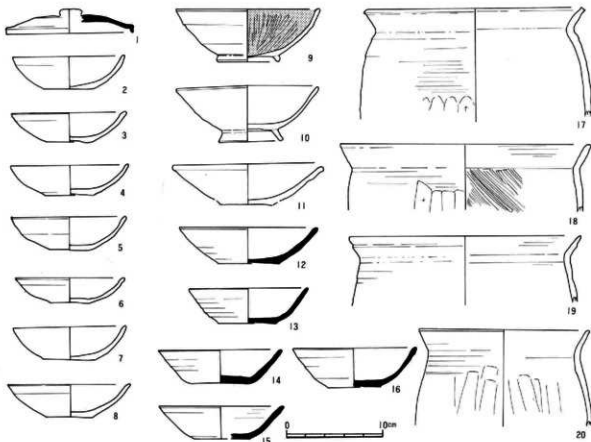
64号住居址

遺構 (170図) E調査区の西側に位置し、奈良時代の101号住居址と重複関係にある。北側壁の一部は調査区域外へ延びる。形態は西壁がやや内傾するが長方形を呈するものと思われる。長軸の規模は不明で、東西軸間4.58mを測る。掘り込みは17cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドの所在は不明であるが、北壁側に炭化物や土器・小礫が散在しており、この近くにある可能性が高い。

遺物 (171図) 出土量は比較的多い。器種には土師器杯 (2~8)・碗 (9~11)・甕 (17~20)、須恵器蓋 (1)・坏 (12~16)・甕がある。2~8はロクロ成形によるもので、皿形を呈し、口縁部は僅かに外反する。ロクロからの切離は糸切りによっている。2・5・7の内面はヘラミガキが施こされる。9はヘラミガキの後黒色処理される。土師器甕は体部上半に最大径があるものと予想される。肩部付近から口縁部にかけてはロクロ調整で、体部はヘラケズリによって仕上げられる。内面調整は、17・19がナデ、18が斜方向のハケナデ、20はタテ方向のヘラによるナデツケである。口縁部は共にヨコナデで仕上げている。



170図 64号住居址実測図



171図 64号住居址出土土器実測図

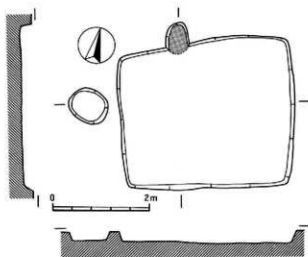


Ⅲ-72 64号住居址

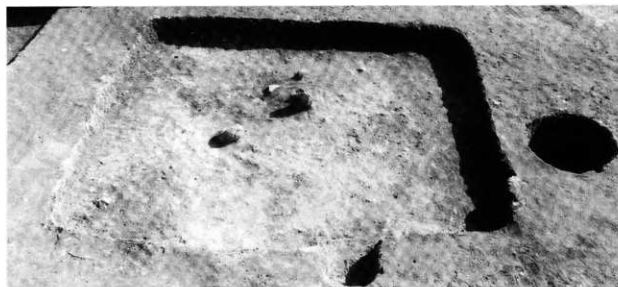
67号住居址

遺構（172図） E調査区の東端に位置し、単独検出遺構である。形態は若干東壁が長くなる不整形を呈する。主軸3.06m・東西軸間3.7m・深さ27cmの規模で、床面は平坦で軟弱である。カマドは北壁西寄りに突出形態のものがつくられ、火床焼土が残存する。

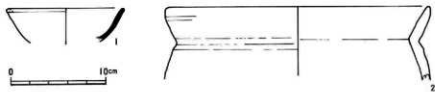
遺物（173図） 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕（2）、須恵器杯（1）・甕がある。土師器杯は内面がヘラミガキ調整で黒色処理される。甕の体部外面はロクロにより調整される。



172図 67号住居址実測図



Ⅲ-73 67号住居址



173図 67号住居址出土土器

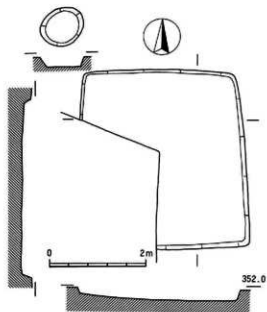
69号住居址

遺構 (175図) E調査区とF調査区との接点に位置し、古墳時代の103号住居址と重複関係にある。南西隅付近は調査区域外へ延びる。形態は南北軸間3.8m・東西軸間3.48mの規模の方形を呈する。掘り込みは23cm程になり、床面は平坦であるが東傾斜する。カマドの痕跡は確認されない。

遺物 (174図) 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕・羽釜、須恵器蓋・坏、灰釉陶器埴がある。図示したものは羽釜で、口縁部は器肉を減じつつ直立し、体部が僅かに張り出す筒形の器形になる。罫は断面三角形を呈し、上向に付けられる。調整は口縁部と内面はナデ仕上げで、体部外面罫下はヘラナデによる。



174図 69号住居址出土土器実測図



175図 69号住居址・15号土坑実測図

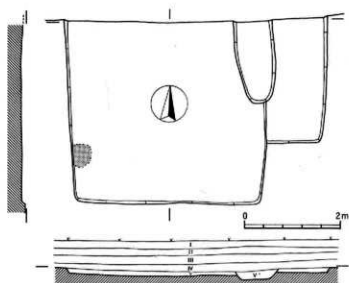


Ⅲ-74 69号住居址

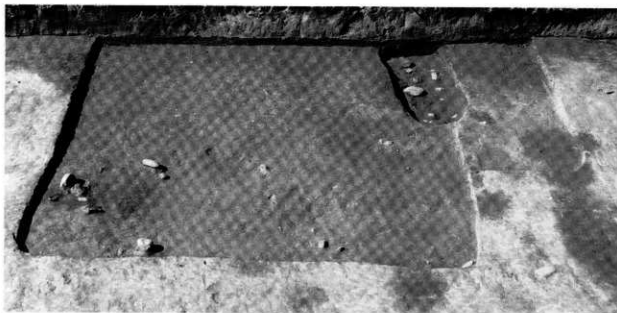
70号住居址

遺構 (176図) F調査区の南側に位置し、古墳時代の71号住居址、17号土坑と重複関係にある。北壁は調査区域外にある。形態は南北軸が長い長方形を呈するものと思われる。長軸の規模は不明であるが東西軸間4.2mを測る。掘り込みは10cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドは西壁隅付近に構築されており、調査では火床焼土・炭化物及び小礫の散在を確認した。

遺物 (186図) 出土量は少なく、全て小破片である。器種には土師器杯・甕・羽釜がある。このほかに鉄鎌 (10) ある。



176図 70号 (左) ・71号 (右) 住居址、17号土坑実測図

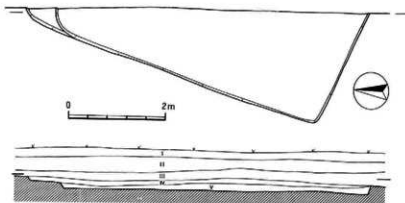


III-75 70号住居址

82号住居址

遺構 (177図) G調査区の中央に位置し、南西隅部を検出したにすぎない。形態は不整長方形と思われるが規模等は不明である。掘り込みは18cm程で、床面は平坦で軟弱である。

遺物 (186図) 出土量は少ない。土師器杯・甕のほか、鉄鎌 (11) が出土している。

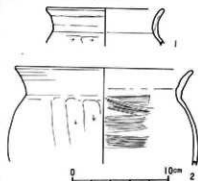


177図 82号住居址実測図

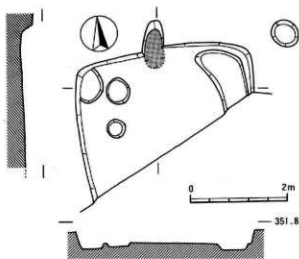
90号住居址

遺構(178図) I調査区の東端に位置し、単独検出遺構であるが南側半分程は調査区域外にある。形態は各壁が丸味を帯びる隅丸方形を呈するものと思われる。主軸の規模は不明であるが東西軸間3.2mを測る。掘り込みは29cm程で、床面は平坦で軟弱である。カマドは北壁中央に構築され、火床はピット状になる。東壁に添って幅60cm・深さ12cm程の溝状遺構があり、この住居址に付属するものと考えられる。

遺物(179図) 出土量は少ない。器種には土師器杯・甕(1・2)、須恵器杯・甕がある。土師器杯はロクロ成形され、内面がヘラミガキされ黒色処理される。甕は口縁部が丸味を帯びて展開し、体部が球形になる。1の肩部はヨコヘラケズリで調整されるのに対して、2の肩部以下はタテヘラケズリが施こされる。内面はナデ調整を基本とするが、2の肩部にはヨコハケ調整痕が残る。



179図 90号住居址出土土器実測図



178図 90号住居址実測図

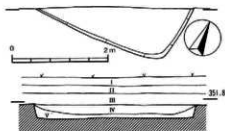


III-76 90号住居址

95号住居址

遺構(180図) I調査区の東側に位置し、単独検出遺構であるが、調査では南東隅部を検出しただけで、規模等は不明である。掘り込みは26cmを測る。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕、須恵器甕がある。



180図 95号住居址実測図

100号住居址

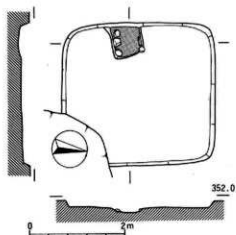
遺構(86図) I調査区の西端に位置し、古墳時代の97号住居址と重複関係にある。調査では南東隅部を検出したにすぎず全形を知ることはできないが方形になるものと予想する。掘り込みは24cmを測る。

遺物 出土量は10数点にすぎず図上復元できるものはない。器種には土師器杯・甕がある。

102号住居址

遺構 (181図) F調査区の中央付近に位置し、単独検出遺構であるが、南東隅部はゴミ穴により破壊を受ける。形態は主軸3.04m・南北軸間3.28m規模の隅丸方形を呈する。掘り込みは14cmで、床面は平坦で軟弱である。カマドは西壁南寄りにあり、石芯両袖形のものである。火床は6cm程凹む。

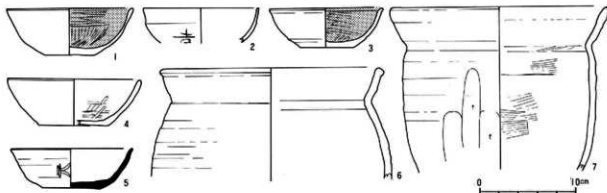
遺物 (182図) 出土量はそれ程多くない。器種には土師器杯(1~4)・甕(6・7)、須恵器蓋・坏(5)・甕がある。1~4の内面はヘラミガキが施こされ、1・3は黒色処理される。2・5の外面に墨書がある。6・7の調整はロクロによっているが、7の外面はヘラケズリで、内面はハケ調整痕が残る。



181図 102号住居址実測図



III-77 102号住居址



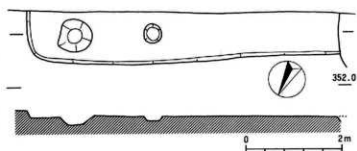
182図 102号住居址出土土器実測図

105号住居址

遺構 (183図) E調査区の中央の遺構群の一つで、奈良時代の101号住居址を掘り込み、中世の26号土坑により西壁側を切り取られる。調査では北壁側一部を検出したにすぎず規模等は不明である。形態は一辺6mを超え

る方形を予想する。掘り込みは14cm程であるが、床面は西傾斜し軟弱である。カマド等の痕跡は確認できなかった。北東隅の柱穴は上面からのものである。

遺物 出土量は少なく、図上復元可能な土器片はない。器種には土師器杯・甕、須恵器甕がある。



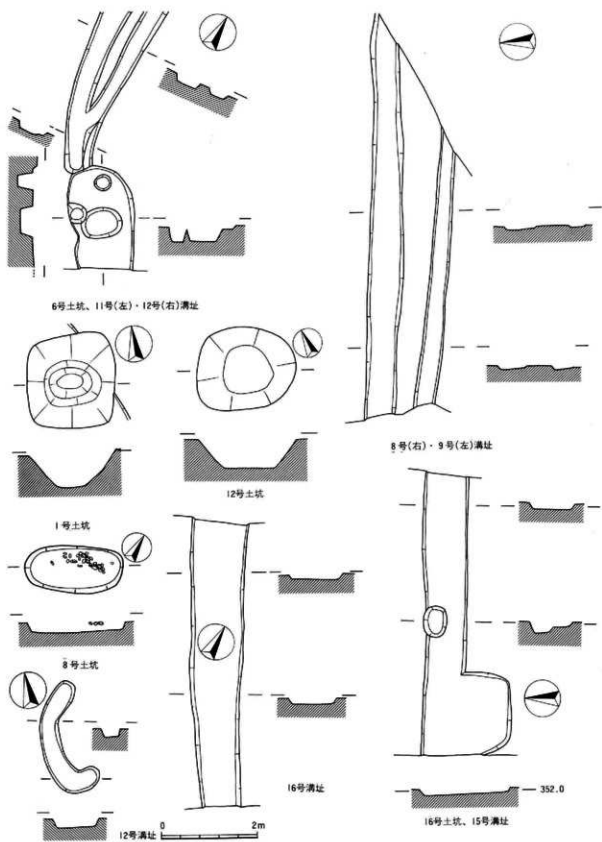
183図 105号住居址実測図

土 坑

1号土坑	184図	限丸方形	長軸 2.0 m × 短軸 1.9 m × 深さ 67cm	平底	土師器杯、須恵器杯	187図
2号土坑	6図	円形	長軸 1.46m × 短軸 1.4 m × 深さ 30cm	平底	土師器杯・埴・甕形土器・須恵器甕	187図
3号土坑	34図	楕円形	長軸 1.70m × 短軸 0.7 m × 深さ 30cm	平底	土師器杯	
4号土坑	6図	円形	長軸 0.78m × 短軸 0.64m × 深さ 20cm	平底	土師器杯・埴・甕	
6号土坑	184図	楕円形	長軸 — m × 短軸 1.38m × 深さ 38cm	平底	土師器杯、灰軸陶器埴、土鍾	187図
7号土坑	40図	長方形	長軸 2.0 m × 短軸 1.22m × 深さ 26cm	平底	土師器埴、灰軸陶器埴	187図
8号土坑	184図	楕円形	長軸 2.08m × 短軸 1.0 m × 深さ 14cm	平底	須恵器杯・甕	
9号土坑	7図	楕円形	長軸 1.76m × 短軸 1.7 m × 深さ 35cm	平底	土師器杯、須恵器蓋・杯	187図
11号土坑	41図	楕円形	長軸 2.4 m × 短軸 1.42m × 深さ 70cm	平底	土師器杯・甕	
12号土坑	184図	円形	長軸 2.10m × 短軸 1.76m × 深さ 61cm	平底		
13号土坑	166図	(楕円形)	長軸 1.18m × 短軸 — m × 深さ ?	平底	土師器杯・甕、須恵器蓋・杯	187図
14号土坑	7図	(不整形)	長軸 1.34m × 短軸 — m × 深さ 30cm	平底	土師器甕、須恵器甕	
15号土坑	175図	円形	長軸 0.94m × 短軸 0.8 m × 深さ 10cm	平底	土師器杯、鉄釘、紡錘車、絞具	186・187図
16号土坑	184図	(楕円形)	長軸(1.9)m × 短軸 — m × 深さ 9cm	平底	土師器杯	
18号土坑	55図	楕円形	長軸 1.1 m × 短軸 0.68m × 深さ 13cm	平底	土師器甕、須恵器甕	
20号土坑	65図	楕円形	長軸 1.54m × 短軸 — m × 深さ 44cm	平底	土師器杯・甕、須恵器甕	
21号土坑	65図	楕円形	長軸 1.1 m × 短軸 0.78m × 深さ 36cm	平底	土師器杯・甕	
22号土坑	8図	長方形	長軸 1.14m × 短軸 0.72m × 深さ 24cm	平底	土師器杯	
23号土坑	184図	楕円形	長軸 2.0 m × 短軸 0.74m × 深さ 16cm	平底	土師器甕	
24号土坑	74図	長方形	長軸 — m × 短軸 1.72m × 深さ 22cm	平底	土師器杯、須恵器甕	

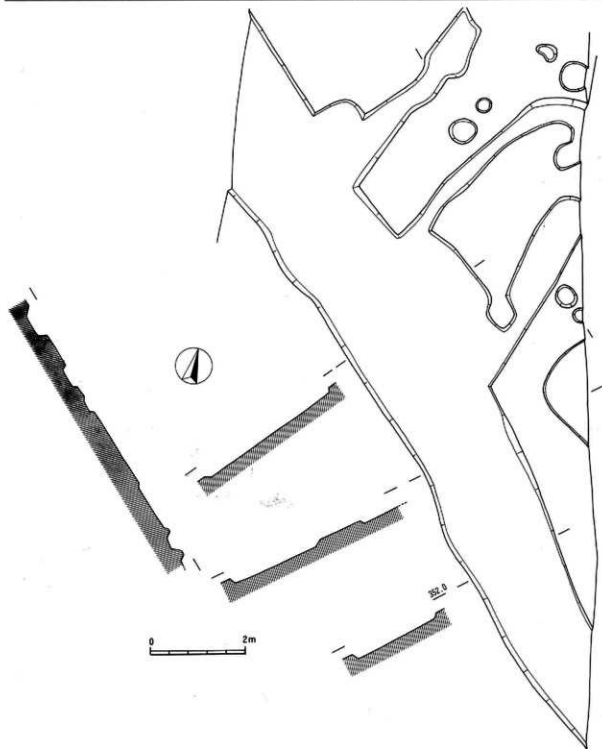
溝 址

1号溝址	185図	U字溝	幅 3.2 m × 深さ 10~16cm	高低差南東→北西	土師器甕、須恵器杯・蓋・甕	
2号溝址	185図	U字溝	幅 0.58m × 深さ 8~13cm	高低差北東→南西	土師器杯	187図
3号溝址	134図	U字溝	幅 0.6 m × 深さ 40~50cm	高低差北東→南西	土師器杯・埴、須恵器杯	
5号溝址	6図	U字溝	幅 0.6 m × 深さ 7~12cm	高低差北東→南西	土師器杯・甕、須恵器蓋	
8号溝址	184図	U字溝	幅 0.44m × 深さ 6~8cm	高低差東→西	土師器杯・甕、須恵器蓋・杯・甕	
9号溝址	184図	U字溝	幅 0.64m × 深さ 6~8cm	高低差東→西	土師器甕、須恵器甕	
10号溝址	184図	U字溝	幅 0.5 m × 深さ 16cm	方向 北→南	土師器杯	
11号溝址	184図	U字溝	幅 0.42m × 深さ 12cm	方向 北→南	土師器杯・甕、須恵器甕	

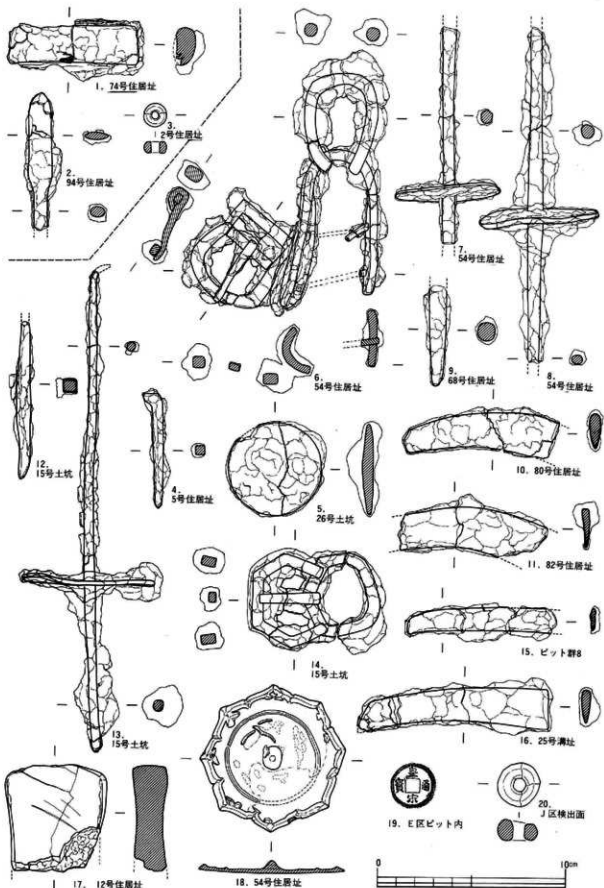


184图 平安時代の土坑・溝址実測図

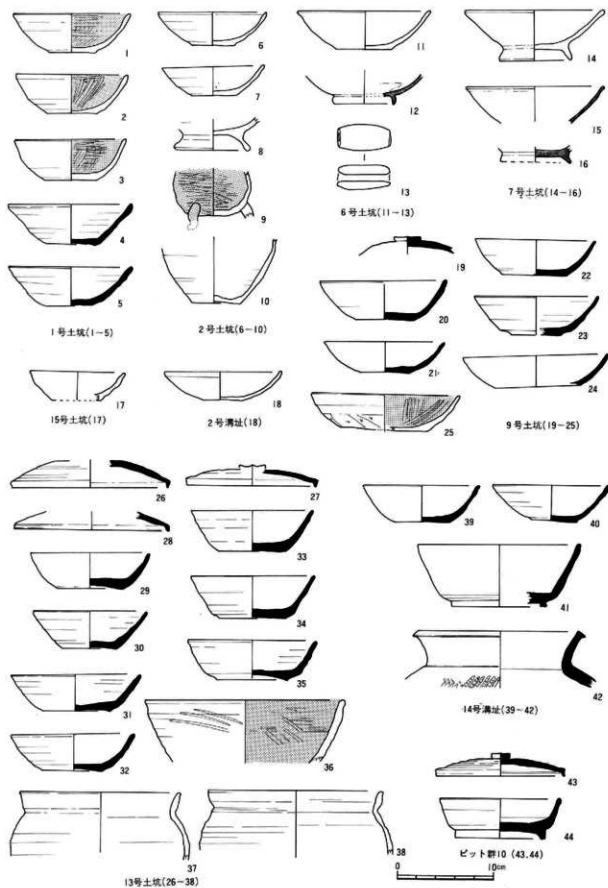
12号溝址	184図	U字溝	幅0.44m × 深さ16~18cm		土師器坏・甕	
13号溝址	107図	U字溝	幅1.0 m × 深さ30~40cm	高低差西 → 東	土師器坏	
14号溝址	48図	U字溝	幅1.3 m × 深さ20~30cm	高低差南西 → 北東	土師器坏、須恵器高台付坏・甕	187図
15号溝址	184図	U字溝	幅0.96m × 深さ12~14cm	方向 東-西	土師器坏、須恵器坏	
16号溝址	184図	U字溝	幅1.16m × 深さ10~12cm	高低差北西 → 南東	土師器坏・甕、須恵器甕	
22号溝址	120図	U字溝	幅0.66m × 深さ16~20cm	方向 東-西	土師器甕、須恵器坏・甕	



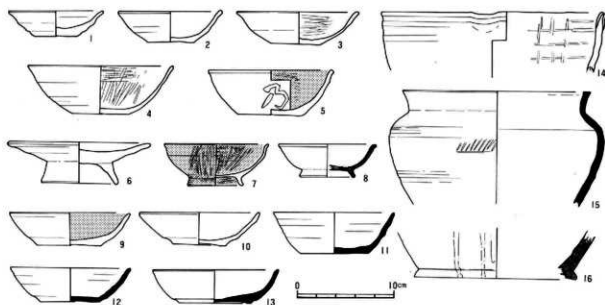
185図 1号・2号溝址実測図



186図 田中沖口遺跡出土金属製品・石製品・ガラス製品実測図



187図 土坑・溝址、ビット群出土土器実測図



188図 検出出土平安時代土器実測図

ピット群（6～8図）

柱穴様の掘り込みの集合体を称する。調査ではピット群13まで番号を付したが、建物址を想定させる規格性のある方形配列をなすものを抽出することができなかった。また時代の位置付けも他遺構との重複関係等から明確ではないが、検出面及び柱穴からの土器片の多くは該期のものが多いので平安時代の遺構として扱う。

ピット群1 A調査区の1号・2号溝址の東側に展開する。

ピット群2 B調査区の西側に位置し、平安時代の12号～14号・22号住居址にとり囲まれるように展開し、これらの遺構に及んでいない点から平安時代の所産と思える。柱穴様のものから土坑状のものがある。

ピット群3 B調査区の中央付近に位置し、平安時代の14号住居址と19号住居址間にあり柱穴列をなす。

ピット群4 B調査区東側に位置し、土坑を含むもので、平安時代の34号住居址より新しい。

ピット群5 B調査区の東端にあり、ピット5個が確認されたが、不規則である。

ピット群6 C調査区の北端にあり、複数の柱穴が土坑状になるものであるが、不規則である。

ピット群7 E調査区の西側に位置し、平安時代の52号住居址と重複関係にあり、これよりも新しい。柱穴の規模がほぼ同じで一見規格性のある配列に見えるが、間隔が不揃いである。

ピット群8 B調査区の西側にあり、平安時代の65号住居址と重複し、これよりも新しい。遺物に刀子状鉄製品（186図15）が出土しているが、65号住居址に所属する可能性がある。

ピット群9 B調査区の中央付近にあり、64号住居址から61号住居址間に展開する。検出個数は多いものの規格性がない。平安時代の63号住居址より新しい。

ピット群10 B調査区の中央より東側に位置し、54号住居址に及んでいないことからこれよりも新しい。出土遺物には須恵器蓋（187図43）・高台付杯（44）がある。

ピット群11 G調査区の中央に位置し、80号住居址と84号住居址間にある。柱列状になるが対辺柱列がない。

ピット群12 I調査区の中央に位置する。古墳時代の89号住居址より新しい。

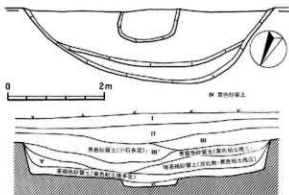
ピット群13 I調査区の西側に展開するが、単独的な性格が強い。

5 中世の遺構と遺物

10号土坑

遺構(189図) E調査区の中央付近に位置し、古墳時代の66号住居址と重複関係にある。南側半分以上は調査区域外へ延びる。調査での形態は不整形のものであるが、最終的には円形になるものと予想する。掘り込みは北側で2段になるが、III層から垂直に近いもので64cm程になる。底面は鍋底状を呈する。底面中央に幅1.25m・深さ10cmの隅丸方形の土坑がある。

遺物 平安時代の土器片が多いが、底面付近より珠洲系の插鉢が出土した。



189図 10号土坑実測図

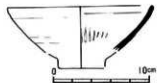


III-78 10号土坑

12号土坑

遺構(41図) E調査区の西側に位置し、古墳時代の55号住居址を切り込む。形態は不整形円形を呈し、3段掘りになり最下のもは長軸1m程の円形になる。長軸2.5m・東西軸間1.7m・最深90cmを測る。

遺物(190図) 該期のものには黄瀬戸甕が出土している。



190図 12号土坑出土磁器実測図

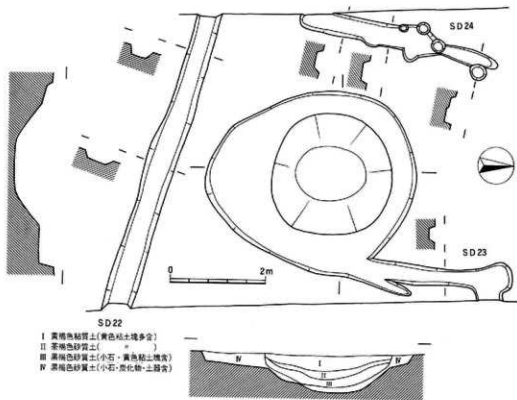


III-79 11号(下)・12号(上)土坑

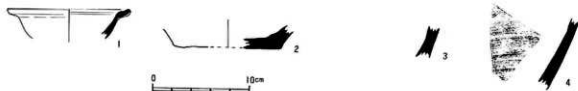
19号土坑

遺構 (191図) G調査区の南端に位置する。掘り込みは2段になっており、外側の形態は長軸4.47m・東西軸間最大幅3.87m・深さ20cm程の規模の卵形を呈し、内側のものは円形になり、直径2.55m・深さ50cmを測る。円形のもの上部には黄褐色粘質土が乗り、検出時ではドーナツ形を呈していた。

遺物 (192図) 覆土中より多くの平安時代を中心とする土器片を得たが、中世の遺物として、龍泉窯系青磁折縁杯(1)、珠洲系の播鉢(2)を抽出する。播鉢の播目は間隔をあけて付される。



III-80 19号土坑

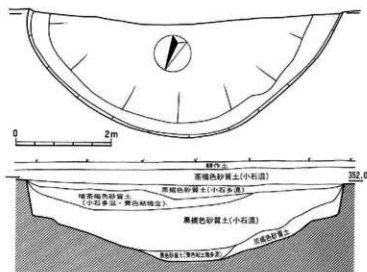


192図 19号土坑出土土器実測図

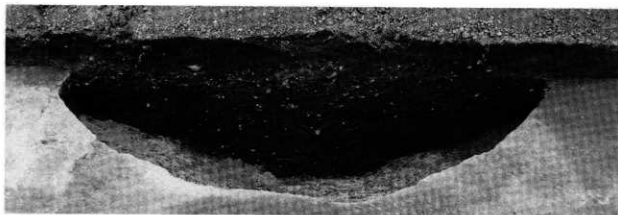
26号土坑

遺構 (193図) E調査区の中央付近に位置し、10号土坑と近接する。調査での形態は不整形のものであるが、最終的には円形になるものと予想する。調査した最大幅は6.7mを測る。掘り込みは2段になり、64~74cmになり、50cm程の平坦部を形成した後、更に鍋底状に凹む。最深部は検出面から1.6mになる。

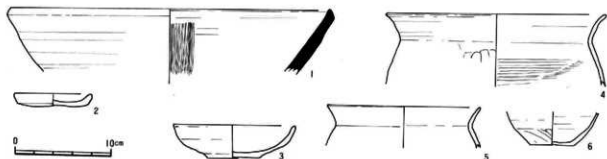
遺物 (194図) 平安時代の土器片(3~6)が多く出土している。該期のものには珠洲系の拙鉢(1)・土師質の土器皿(2)がある。



193図 26号土坑(53号住居址)実測図



III-81 26号土坑(53号住居址)



194図 26号土坑(53号住居址)出土土器・陶器実測図

6 時代不明の遺構

出土遺物がほとんどなく、時代・時期を決しかねる遺構を扱う。

46号住居址

遺構（6図） C調査区の中央に位置し、奈良時代の42号住居址と平安時代の41号住居址と重複関係にあり、東壁側は調査区域外にある。形態は北・南壁が丸味を帯びることから隅丸方形を予想する。南北幅間は4.8mの規模になる。掘り込みは6cmで、床面は平坦で軟弱である。

71号住居址

遺構（142図） F調査区の南側に位置し、古墳時代の103号住居址、17号土坑と平安時代の70号住居址と重複関係にある。西壁は調査区域外にある。規模等は不明であるが形態は方形を呈するものと思われる。掘り込みは8cm程になり、床面は平坦で軟弱である。

99号住居址

遺構（90図） I調査区の西側に位置し、古墳時代の104号住居址を切り込む状態で検出されている。調査は北壁側一部を検出したにすぎない。規模等は不明であるが方形を呈するものと思われる。掘り込みは25cmを測る。

溝 址

7号溝址	6図	U字形	幅1.5 m × 深さ10～12 cm	高低差北西→南東
23号溝址	191図	U字形	幅0.48 m × 深さ14～20 cm	方向 北－南
24号溝址	191図	U字形	幅0.46 m × 深さ12～16 cm	方向 北－南
26号溝址	8図	U字形	幅0.6 m × 深さ10～14 cm	高低差北西→南東
27号溝址	8図	U字形	幅2.06 m × 深さ14 cm	高低差北西→南東
28号溝址	8図	U字形	幅0.64 m × 深さ10～12 cm	高低差北西→南東
29号溝址	8図	U字形	幅0.36 m × 深さ6 cm	方向 北－南

7 住居址計測表

古墳時代

住居址番号	図番号	形 態	尺 量		方向N-E	床 面	カマド位置等	遺物図番号	付 記
			長(m)	幅(m)					
2	9	方形	7.32	7.64 × 18	32			10	ガラス小玉
3	12	〃	-	× 4.6 × 17	10			11	
4	13	不整長方形	-	× 3.48 × 17	8		東側中央焼土	14	
7-イ	112	(方形)	-	× - × 6					
7-ロ	15	方形	-	× 5.04 × 32	0			16	
8	17	隅丸方形	6.96	× 6.8 × 10	71	竪 竪	東壁中央・焼土4ヶ所	18	主柱穴4個方形配列
10	19	方形	4.8	× 4.64 × 8	6		北壁中央	20	〃
16	21	〃	3.52	× 3.68 × 6	5		〃	22	主柱穴東壁派2個
20	23	〃	-	× (5.6) × 19	24		北壁西寄	24	主柱穴(4個方形配列)
28	25	〃	3.3	× - × 7	20			26	
32	27	〃	-	× 5.16 × 22	15	竪露出		28	
33	30	〃	5.0	× 4.96 × 11	14	〃		29	
35	144	(方形)	-	× - × 14	10		(東壁)	31	
36	32	方形	-	× - × 9	75			33	
37	34	〃	3.98	× 3.9 × 8	16			35	
38	34	隅丸方形	5.6	× 4.8 × 26	53		北側中央焼土	36	主柱穴(4個方形配列)
44	37	長方形	5.44	× 4.24 × 23	25			38	南西隅入口施設(?)
51	40	(方形)	-	× - × 14	25			39	
55	41	(〃)	-	× - × 21	0			42	
58	43	方形	4.12	× 4.08 × 17	19-W		中央焼土	44	
61	45	不整方形	-	× 4.3 × 34	15-W	竪 竪		46	
62	48	不整長方形	4.62	× 2.82 × -	10-W			47	
66	166	(隅丸方形)	-	× - × 40	(15)-W			49	
72	51	不整長方形	5.82	× - × 17	3-W			50	
73	53	(方形)	6.08	× - × 11	3-W		(北壁中央)	52	
74	54	(〃)	5.72	× - × 12	11-W	竪露出		186	把手状鉄製品
75	55	(〃)	-	× - × 8		〃			
76	57	隅丸方形	2.4	× - × 4	4-W	〃		56	
77	58	長方形	4.4	× 3.28 × 12	4-W	〃	西壁中央焼土	59	
78	60	隅丸方形	(5.3)	× - × 9	5			61	小ビット・円形土坑
79	62	方形	3.07	× - × 20	20-W		(北壁中央)	63	
81	64	〃	5.12	× 5.0 × 17	10-W				
83	65	(方形)	-	× - × 31					
84	67	不整方形	3.54	× 3.2 × 22	8-W			66	

住居址番号	図番号	形態	規 模		方向N-E	床 面	カマド位置等	遺物図番号	付 記
			長(内)軸m	短(内)軸m					
85	68	(隅丸方形)	-	-	18				
86	69	方形	4.8	-	22	2	北壁中央	70	主柱穴(4個方形配列)
87	71	*	4.98	(4.6)	21	0	北壁中央東寄	72	貯蔵穴
88	74	不整形	3.0	2.9	7	34	東壁中央	73	
89	75	方形	-	5.28	22	20-W	北壁中央西寄		
91	77	(隅丸方形)	-	(5.66)	7	25-W		76	溝状遺構
92	78	(*)	-	-	9	(3)-W		79	
93	80	不整形	3.2	2.64	16	24	北壁中央	81	
94	82	(方形)	-	-	16	30-W	北壁西寄焼土	83	鉄鏝
96	85	隅丸長方形	-	6.04	10	16-W	壁 紙	84	主柱穴(4個方形配列)
97	86	(方形)	-	-	30	27-W			
98	87	方形	-	4.94	31	12-W			
103	88	(方形)	-	5.5	20	15-W		89	
104	90	(隅丸方形)	-	5.8	10	(10)-W			
106	92	方形	-	4.92	37	7-W			

奈良時代

住居址番号	図番号	形態	規 模		方向N-E	床 面	カマド位置等	遺物図番号	付 記
			長(内)軸m	短(内)軸m					
29	96	隅丸方形	3.66	3.92	9	5-W	襖露出	中央北寄焼土	97
42	98	(隅丸方形)	-	-	29	(30)			99
59	168	方形	4.46	-	10	10-W			100
63	101	*	-	5.38	21	24-W			102
68	103	*	-	3.60	21	2-W		104・186	棒状鉄製品
80	106	*	4.4	-	16	5-W	北壁中央	105・186	鉄鏝・張り出しカマド
101	107	不整形	-	5.48	20	15-W		108	

平安時代

住居址番号	図番号	形態	規 模		方向N-E	床 面	カマド位置等	遺物図番号	付 記	
			長(内)軸m	短(内)軸m						
1	109	長方形	8.0	6.12	20	38	東壁南寄・石芯		主柱穴(4個方形配列)	
5	112	(方形)	-	-	21	40	南壁中央・石芯	111		
6	114	(*)	-	3.58	28	0				
9	115	不整形	3.12	2.88	12	77	東壁南寄・石芯	116		
11	118	隅丸方形	-	4.04	13			119		
12	130	隅丸長方形	3.08	3.6	8	23	北壁西寄	121・186	砥石	
13	122	不整形	(3.7)	3.96	10	13	*			
14	123	隅丸長方形	-	6.18	27	11	壁 紙	南東隅寄焼土	125・126	土器集中
15	127	方形	-	3.04	16	0	南寄中央焼土			
17	128	方形	-	4.1	15	20				

住居番号	図番号	形 態	規 格		方向N-E	床 面	カマド位置等	遺物図番号	付 記
			長(m)	幅(m)					
18	129	(方形)	-	-	× 13	20-W			
19	130	方形	7.4	× 7.32	× 47	110		131	
		隅丸長方形	5.48	× 6.92	× (21)	110	襖出 東壁隅・土坑内焼土	131	主柱穴4個方形配列
21	132	(方形)	-	× 3.0	× 17	18		133	
22	120	(*)	-	× -	× 30	0			
23	134	(*)	-	× 3.55	× 18	35	北壁西寄		
24	136	(*)	-	× 4.63	× 20	30	中央北寄焼土	135	
25	138	方形	-	× 3.9	× 15	10	南壁中央焼土	137	
26	140	*	3.8	× 3.86	× 13	32	南壁中央	139	
27	128	(方形)	-	× 4.0	× 20	20		141	
30	27	(*)	-	× 5.4	× 21	10-W	襖出		
31	142	方形	2.72	× 2.72	× 8	67	南東隅	143	
34	144	*	-	× 7.72	× 35	22	北壁西寄	145	
39	146	*	3.86	× -	× 11	20	窓 紙		
40	148	*	4.12	× -	× 19	24	南壁中央・石芯	147	
41	149	*	5.24	× 4.0	× 17	33	北壁中央	150	
43	150	隅丸方形	4.48	× 4.84	× 23	64	南東隅・石芯	152	
45	153	方形	3.94	× -	× 32	18		154	
47	142	隅丸長方形	(4.6)	× 4.06	× 6	42			
48	155	不整形方形	-	× 4.58	× 17	4			
49	157	不整形隅丸方形	4.16	× -	× 12	30		156	
50	158	(方形)	-	× 2.87	× 28	23-W			
52	159	不整形隅丸方形	2.96	× 2.96	× 17	25-W		160	
54	161	*	4.78	× 3.94	× 14	10-W	(南東隅)	162・163・186	八稜鏡・鍍金具・鉄製紡錘車
56	165	(方形)	-	× 3.72	× 17	0		164	
57	166	(長方形)	-	× 3.4	× 30	15-W	貼り床 北壁西寄	167	
60	168	長方形	-	× 3.6	× 28	8-W	北壁西寄		
64	170	*	-	× 4.58	× 17	26-W	(北壁中央)	171	
65	7		-	× -	× 18			169	
67	172	不整形方形	3.06	× 3.7	× 27	13-W	北壁西寄	173	
69	175	方形	3.8	× 3.48	× 23	2-W		174	
70	176	長方形	-	× 4.2	× 10	0	南西隅	186	鉄鎌
82	177	(不整形長方形)	-	× -	× 18	15		186	*
90	178	隅丸方形	-	× 3.2	× 29	5-W	北壁中央	179	
95	180	(方形)	-	× -	× 26	0			
100	86	(*)	-	× -	× 24	0			
102	181	隅丸方形	3.04	× 3.28	× 14	84-W	西壁南寄	182	
105	183	(方形)	-	× -	× 14	28-W			

8 遺物観察表

古墳時代

番号	種別	器種	法量 (cm)		調整等	
			口径	高さ		
2号住居址 (10図)						
1	須恵	蓋	10.0	3.3	ロクロ	
2	土師	坏	9.0	3.4		
3	〃	〃	10.0	3.5	ミガキ・黒色処理	
4	〃	〃	10.8	5.2	〃・〃	
5	〃	〃	11.5	4.9	〃・〃	
6	〃	〃	13.6	6.8	5.1	〃・〃
7	〃	〃	11.0	4.8	4.5	〃・〃
8	〃			8.0	ミガキ	
9	〃	甕	18.0		タテハケ	
3号住居址 (11図)						
1	須恵	蓋	11.0	2.6	ロクロ調整	
2	〃	坏	9.0	3.1	ハラケズリ	
3	土師	甕		7.2	ハラナデ・ミガキ	
4	〃	〃	13.6		ハラケズリ	
4号住居址 (14図)						
1	土師	坏	16.2		ミガキ・黒色処理	
2	〃	〃	12.6	4.2	〃・〃	
3	〃	〃	14.4	4.3	〃	
4	〃	〃	13.0		〃・〃	
5	〃	〃	14.8		〃・〃	
6	〃	浅鉢	22.1		ハラケズリ・ミガキ	
7	〃	埴	13.4	8.0	12.2	ミガキ・黒色処理
8	〃	壺			〃	
9	〃	器台	16.4	17.7	3.2	〃
10	〃	甕	15.0	6.8		ナデ
11	〃	〃		7.0		ハラケズリ・ナデ
7-0号住居址 (16図)						
1	土師	坏	8.8	3.1	手捏	
2	〃	〃	12.0	8.9	ミガキ	
3	〃	〃	14.0	6.3	9.2	〃・黒色処理
4	〃	〃	15.0	6.0		手捏

番号	種別	器種	法量 (cm)		調整等	
			口径	高さ		
8号住居址 (18図)						
1	須恵	坏	8.2		ロクロ調整	
2	土師	蓋	14.0	8.0	2.3	ナデ・ミガキ
3	〃	坏	9.2		6.6	ミガキ
4	〃	甕	23.4			ヨコナデ
5	〃	〃	14.0	6.0		タテハケ・ヨコハケ
6	〃	〃		7.5		ナデ
10号住居址 (20図)						
1	土師	鉢	18.5	7.6	11.4	ミガキ・黒色処理
2	〃	甕	20.0			ナデ
3	〃	〃	18.2			〃・ハケ
4	〃	〃		8.8		〃・木葉痕
16号住居址 (22図)						
1	土師	坏	11.6		3.8	ナデ
2	〃	〃	25.6	11.6		ミガキ・黒色処理
3	〃	瓶	15.2	11.4		〃・ナデ・黒色処理
4	〃	高坏	16.4	12.0	13.5	〃・〃・〃
5	〃	壺		6.0		〃・〃
6	〃	〃		6.2		〃
7	〃	甕	19.0			ハケ・ナデ
8	〃	〃	20.0			〃・〃
20号住居址 (24図)						
1	須恵	蓋	9.0			ハラケズリ・ロクロ調整
2	土師	坏	9.4		3.8	ミガキ・黒色処理
3	須恵	〃		6.0		ロクロ調整
4	土師	〃	10.5		4.3	ミガキ
5	〃	台付皿	7.0	4.5	3.1	〃・ケズリ・黒色処理
6	〃	高坏	12.6	8.0	9.7	〃・〃
7	〃	〃		8.4		〃
28号住居址 (26図)						
1	土師	高坏	17.6			ミガキ・黒色処理
2	〃	器台	13.2	11.6	4.6	ナデ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	径深	高さ	
32号住居址 (28図)						
1	土師	甕	20.7	10.0	20.2	ナデ・ハケ
33号住居址 (29図)						
1	土師	杯	12.2		6.0	ミガキ
2	〃	〃	11.8		6.1	〃
35号住居址 (31図)						
1	土師	杯	11.5		6.3	ミガキ
2	〃	〃	10.1		3.6	〃・黒色処理
3	〃	高杯	13.4			〃
4	〃	〃			10.0	〃・ナデ
5	〃	甕			5.6	タテナデ
36号住居址 (33図)						
1	土師	杯	12.2	6.0	4.8	ミガキ
2	〃	壺	12.0			〃
3	〃	高杯	19.4	10.6	10.6	〃・ナデ
37号住居址 (35図)						
1	土師	甕	15.0	7.1	16.4	ヘラケズリ・ナデ
38号住居址 (36図)						
1	土師	甕	19.9	9.5	25.0	タテナデ
2	〃	〃	19.5	6.6	39.2	ヘラケズリ
3	須恵	横楕	11.8		23.5	タタキ目・ヘラケズリ
44号住居址 (38図)						
1	土師	杯	8.6		6.5	ヘラケズリ・ミガキ
2	〃	〃	12.1		5.4	ミガキ
3	〃	〃	11.4			ナデ・ケズリ
4	〃	〃			7.8	〃・木葉痕
5	〃	〃	16.0		12.0	ミガキ
6	〃	筒形土器	12.7		9.7	〃
51号住居址 (39図)						
1	土師	壺	10.0			ミガキ
55号住居址 (42図)						
1	土師	杯	13.7		3.5	黒色処理
2	〃	〃	14.8		3.7	ミガキ・黒色処理
3	〃	浅鉢	11.3	7.8	10.9	ヘラミガキ
4	〃	甕	13.3			ナデ
5	〃	〃	18.0			タテハケ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	径深	高さ	
6	土師	甕			8.2	
58号住居址 (44図)						
1	土師	杯	15.6			ミガキ・黒色処理
2	〃	台付杯	10.8	6.7	10.0	ナデ
3	〃	甕	17.0			ミガキ
61号住居址 (46図)						
1	土師	高杯	14.6	10.0	12.4	ミガキ・ナデ
2	〃	〃			12.0	〃
3	須恵	甕	20.4			タタキ目・青黒波文
4	土師	壺			8.4	
62号住居址 (47図)						
1	土師	高杯	16.2		18.1	ミガキ
2	〃	甕	15.6			ハケ・ナデ
66号住居址 (49図)						
1	土師	杯	9.8		3.9	ミガキ
2	〃	〃	12.6		5.4	〃
3	〃	高杯				〃
4	〃	〃	13.4	8.2	10.9	〃
5	〃	〃			11.2	〃
6	〃	甕	21.0			〃・ハケ
72号住居址 (50図)						
1	土師	杯	9.8		6.8	ミガキ・黒色処理
2	〃	〃	12.8		5.0	〃
73号住居址 (52図)						
1	須恵	蓋	11.1			口口調整
2	土師	杯	11.4		5.3	ミガキ
76号住居址 (56図)						
1	土師	高杯				ミガキ
2	〃	〃				〃
77号住居址 (59図)						
1	土師	高杯	18.6			ミガキ・黒色処理
2	〃	〃				〃
3	〃	甕	17.6			ハケ・ナデ
4	〃	〃	16.4			〃
5	〃	〃	20.0			ナデ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口内径	口径	器高	
78号住居址 (61図)						
1	土師	坏	20.2		7.1	ミガキ
2	〃	〃	10.0		3.2	〃
3	〃	台付坏		8.4		〃
4	〃	甕	18.8			ナデ
79号住居址 (63図)						
1	土師	坏	11.1			ミガキ・黒色処理
2	〃	高坏	16.2			〃
3	〃	〃	13.6			〃
4	〃	埴	12.7	7.2	16.6	ヘラミガキ
5	〃	〃	10.5	5.9	15.2	〃
6	〃	甕	16.4	5.2	13.8	〃・ナデ
7	〃	甕	14.8			ナデ
8	〃	〃	18.6			〃
9	〃	〃	19.8			ハケ
84号住居址 (66図)						
1	須恵	高坏	10.4	7.4	10.0	ナデ・ヘラケズリ
2	土師	甕		7.4		〃・木葉痕
86号住居址 (70図)						
1	土師	坏	11.0			
2	〃	〃	11.0		4.2	ミガキ・黒色処理
3	〃	〃	12.5		4.5	〃・〃
4	〃	〃	9.2	5.4	4.4	〃・〃
5	〃	〃	11.5	6.8	4.0	〃・〃
6	〃	高坏	14.1	10.6	12.6	〃
7	〃	甕	19.0			ナデ
87号住居址 (72図)						
1	土師	坏	11.2		4.5	ミガキ
2	〃	〃	11.5		5.3	〃
3	〃	〃	13.4		5.1	〃
4	〃	〃	11.2			〃・黒色処理
5	〃	甕		8.5		ナデ
6	〃	〃		5.6		〃
7	〃	〃	16.2			ハケ・ナデ
88号住居址 (73図)						
1	土師	坏	10.2		3.3	ミガキ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口内径	口径	器高	
2	土師	高坏				ミガキ・黒色処理
91号住居址 (76図)						
1	須恵	坏		6.2		ナデ
2	土師	〃	12.6		5.4	ミガキ・黒色処理
92号住居址 (79図)						
1	土師	甕	25.6			ハケ
93号住居址 (81図)						
1	土師	甕	15.3	5.6	25.4	ナデ
2	〃	〃	18.4	7.0	33.6	ナデ・ハケ
94号住居址 (83図)						
1	土師	坏	13.2		5.3	ミガキ・黒色処理
2	〃	埴	15.7		13.5	〃・〃
3	〃	甕	12.7		11.0	〃・〃
4	〃	〃	18.2		12.6	〃・〃
5	〃	鉢	12.0	9.5	15.0	ヨコナデ
6	〃	高坏	13.5	13.4	14.7	ミガキ・黒色処理
7	〃	壺	16.6			〃
8	〃	甕	12.7	6.4	20.7	ハケ・ナデ
96号住居址 (84図)						
1	土師	坏	13.0		5.0	ミガキ
2	〃	甕		9.0		ナデ
103号住居址 (89図)						
1	土師	坏	10.5			ミガキ
2	〃	甕	15.8			ヘラケズリ・ミガキ
5号土坑 (94図)						
1	土師	坏	11.5		3.5	ミガキ
2	〃	甕				〃・黒色処理
3	〃	甕	10.8			〃・ハケ
4	〃	〃		8.0		ナデ
5	〃	〃		17.6		ミガキ・ハケ
6	〃	〃		5.1		ヘラケズリ・ナデ
7	〃	〃		7.0		ハケ
8	〃	〃		9.0		〃
9	〃	〃	20.7	5.3	37.6	ヘラケズリ・ナデ
4号溝 (95図)						
1	土師	坏	12.0			ミガキ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
2	土師	甕		9.6		ナデ
3	"	"	17.5			"
25号溝 (95図)						
4	須恵	坏	8.7	3.4		ロクロ
検出面 (95図)						

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
5	土師	坏	9.8		4.9	ミガキ・黒色処理
6	"	"	12.4		3.1	"・"・"
7	"	台付坏			6.0	"
8	"	"	13.3	7.0	8.8	"・ナデ
9	"	埴輪?				ナデ

奈良時代

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
29号住居址 (97図)						
1	須恵	坏	12.5	5.6	3.7	ロクロ調整・糸切り
2	"	"	14.6	9.0	4.5	"・ヘラ切り
3	土師	甕	20.0	4.0	10.1	ヘラケズリ・ナデ
4	"	"	18.8			タテハケ・ハケ
42号住居址 (99図)						
1	須恵	坏	14.2	7.5	5.0	ロクロ調整・ヘラ切り
2	"	"	13.4	7.6	4.0	"・ケズリ
3	"	"	13.7	7.5	4.7	"・"・"
4	"	蓋	17.5		4.9	ケズリ
5	"	壺	8.8			ロクロ調整
6	土師	甕			5.8	
7	"	"			7.0	木炭痕
8	"	"	17.7			タテハケ・ヨコハケ・ナデ
59号住居址 (100図)						
1	土師	蓋	16.5		1.8	ケズリ・ミガキ
2	"	坏	16.4	8.0	5.5	"
3	"	"	19.4	9.3	7.8	ミガキ・黒色処理・ケズリ
4	須恵	把手				
63号住居址 (102図)						
1	須恵	坏				ヘラ切り・ヘラナデ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
2	土師	坏			6.2	ケズリ
3	"	高台付坏			6.7	ロクロ
4	土師	鉢	26.2			"
68号住居址 (104図)						
1	土師	甕	16.9			ケズリ
2	"	"	19.8	8.0	34.0	タテハケ・ハケ
3	"	"	19.5	6.8	36.0	"・"・ナデ
4	"	"			6.8	
5	"	高坏	20.0	11.0	9.7	ミガキ・黒色処理
6	須恵	高台付坏	14.4	9.4	4.0	ロクロ
7	土師	坏	13.5		7.5	ミガキ
8	"	"	10.6		9.5	"
80号住居址 (105図)						
1	須恵	蓋	13.6		3.3	ロクロ・ケズリ
101号住居址 (108図)						
1	須恵	坏	13.5	9.2	3.5	ロクロ・ヘラ切り
2	土師	"	14.0	8.5	3.6	ミガキ・黒色処理・ケズリ
3	須恵	"	12.8	6.8	3.0	ロクロ・ケズリ
4	"	高台付坏	12.6	10.5	3.9	"
5	"	"	10.0	6.8	4.5	"
6	"	鉢	28.8			タタキ

平安時代

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
5号住居址 (111図)						
1	土師	甕	13.8	6.0	5.2	ロクロ・黒色処理
2	須恵	高台付坏	17.0	11.6	4.1	"

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
9号住居址 (116図)						
1	土師	坏	13.0	4.6	4.1	ロクロ
2	"	"	12.5	6.1	3.7	"・黒色処理
3	"	"	13.0	4.9	4.0	"・"・"

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	口径	器高	
4	土師	坏	13.0	4.6	4.3	ロクロ・黒色処理
5	須恵	〃	12.6	5.4	3.9	〃
6	土師	甕	23.4			〃・ナデ
7	〃	〃	24.4			〃・〃
8	〃	〃		8.5		〃
9	須恵	〃		14.3		〃・ケズリ
11号住居址 (119図)						
1	土師	甕	26.0			タテケズリ・ナデ
2	〃	〃	24.6			〃・ハケ
3	〃	羽口				ナデ
12号住居址 (121図)						
1	須恵	蓋	12.8		2.3	ロクロ・ケズリ
2	土師	皿	12.6	6.0	2.0	〃・黒色処理
3	〃	坏	10.7	4.8	3.5	〃
4	〃	〃	10.8	4.1	3.6	〃
5	〃	〃	12.6	6.5	3.4	〃・黒色処理
6	〃	〃	11.5	5.0	3.6	〃
7	〃	碗	14.8	6.8	5.2	〃・高脚
8	〃	〃		6.8		〃・〃
9	〃	〃		7.1		〃・黒色処理
10	灰輪	〃		6.6		〃
11	土師	鉢	16.0	4.7	9.1	〃・黒色処理
12	〃	甕	17.6			〃
13	須恵	細口瓶	9.8			〃
14号住居址 (125・126図)						
1	須恵	蓋				ロクロ・ケズリ
2	〃	〃				〃・〃
3	土師	〃	22.1			ミガキ・黒色処理
4	〃	坏	11.3	4.6	3.4	ロクロ
5	〃	〃	12.1	4.5	3.5	〃
6	〃	〃	12.0	4.5	3.3	〃
7	〃	〃	12.1	5.0	3.0	〃
8	〃	〃	13.1	4.5	4.1	〃・ミガキ
9	〃	〃	12.0	5.0	3.5	〃
10	〃	〃	11.8	3.7	3.5	〃
11	〃	〃	11.5	4.3	2.8	〃

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	口径	器高	
12	土師	坏	12.7	4.5	3.2	〃
13	〃	〃		5.2		〃
14	〃	〃		5.2		〃
15	〃	〃	12.1	4.6	3.3	〃
16	〃	〃	11.8	4.0	3.4	〃
17	〃	〃	12.4	4.4	3.5	〃
18	〃	〃	11.4	5.8	3.5	〃
19	〃	〃	11.8	4.2	3.4	〃
20	〃	〃	11.0	4.6	3.0	〃
21	〃	〃	11.6	4.6	3.0	〃
22	〃	〃	11.6	5.0	3.3	〃
23	〃	〃	12.4			〃
24	〃	〃	11.4	4.0	3.6	〃
25	〃	〃	12.0	4.5	3.4	〃
26	〃	〃	12.2	5.7	3.1	〃
27	〃	〃	11.7	4.2	3.6	〃
28	〃	〃	12.0	4.7	3.7	〃
29	〃	〃	11.8	4.5	3.1	〃
30	〃	〃	11.9	4.6	3.6	〃
31	〃	〃	11.4	4.5	3.4	〃
32	〃	〃	11.6	4.0	3.9	〃
33	〃	〃	10.8	3.9	3.4	〃
34	〃	〃	12.2			〃
35	〃	碗	14.4	6.0	6.1	〃・黒色処理
36	〃	〃	13.3			〃・〃
37	〃	〃	12.5	6.6	5.2	〃・〃
38	〃	〃	14.9	8.0	5.5	〃・ミガキ・高脚
39	〃	〃	13.7	7.7	4.8	〃・〃
40	〃	〃	14.0			〃・(〃)
41	〃	〃	14.3	7.4	5.9	〃・黒色処理・高脚
42	〃	〃		9.6		〃・〃・〃
43	〃	〃		7.6		〃・〃・〃
44	〃	〃		7.4		〃・〃
45	〃	甕	13.0	8.2	6.1	〃
47	〃	坏	11.5	4.2	3.5	〃
48	〃	〃	11.3	4.1	2.8	〃

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口徑	底徑	器高	
49	土師	坏	12.1	4.5	3.5	ロクロ
50	〃	〃	12.1	5.2	3.7	〃
51	〃	〃	11.3	4.5	3.5	〃
52	〃	〃	12.3	4.8	3.7	〃
53	〃	〃	11.8	4.7	3.2	〃
54	〃	〃	10.7	4.4	2.8	〃
55	〃	〃	11.8	4.7	3.1	〃
56	〃	〃	11.7	4.5	2.7	〃
57	〃	〃	11.8	4.2	3.2	〃
58	〃	〃	11.5	4.4	3.3	〃
59	〃	〃	11.3	4.6	2.9	〃
60	〃	〃	11.7	4.6	3.1	〃
61	〃	〃	9.9	3.3	3.2	〃
62	〃	〃	12.0	4.7	2.9	〃
63	〃	〃	10.3	4.5	2.8	〃
64	〃	〃	11.6	4.2	3.4	〃
65	〃	埴	11.3	5.5	4.6	・黒色処理
66	〃	〃	11.3	6.6	4.4	・ 〃
67	〃	〃	11.2	6.4	4.6	・ 〃
68	〃	〃	12.0	6.8	4.3	・ 〃
69	〃	〃	14.8	8.2	5.1	・高脚
70	〃	〃	14.8	7.8	5.5	・ 〃
71	〃	〃	14.3	7.8	5.0	・ 〃
72	〃	〃	14.0	8.4	5.4	・ミガキ・高脚
73	〃	〃	14.3	7.2	5.5	・ 〃
74	〃	〃	15.2	7.5	6.0	・ 〃
75	〃	〃	14.3	7.6	5.5	・ 〃
76	〃	〃	14.3			・ 〃
77	〃	〃	14.5			・ 〃
78	〃	〃		7.5		・ 〃
79	〃	〃		7.8		・ 〃
80	〃	〃		7.8		・ 〃
81	〃	〃		7.3		・ 〃
82	〃	〃		7.5		・ 〃
83	〃	〃		7.6		・ 〃
84	〃	〃	14.8			・ 〃

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口徑	底徑	器高	
85	土師	鉢	8.4	4.7	6.8	・ 〃
86	灰軸	埴	17.0	7.7	5.7	〃
87	〃	長頸瓶	14.6			〃
88	土師	甕	17.4			・ナゲ
89	〃	〃	12.4			・ 〃
90	須志	壺		7.6		〃
19号住居址 (131圖)						
1	土師	坏	11.8	5.4	3.2	ロクロ
2	〃	〃	11.4			〃
3	〃	〃	11.3	5.3	3.1	〃
4	〃	〃	11.5	4.8	3.2	〃
5	〃	〃	10.2	4.4	3.1	〃
6	〃	〃	11.6	4.4	3.5	〃
7	〃	〃	11.3	4.6	3.6	〃
8	〃	〃	11.4	5.0	3.4	〃
9	〃	〃	11.8	4.7	3.6	〃
10	〃	〃	10.8	4.4	3.5	〃
11	〃	〃	11.1	4.6	3.6	〃
12	〃	〃	12.6	4.2	3.8	〃
13	〃	〃	12.5	5.0	3.0	〃
14	〃	〃	11.6	5.5	3.9	〃
15	〃	〃	11.5	5.3	3.7	〃
16	〃	〃	10.7	4.0	3.3	〃
17	〃	〃	11.8	4.6	3.7	〃
18	〃	〃	10.4	4.3	3.2	〃
19	〃	〃	10.8	4.8	2.9	〃
20	〃	〃	10.8	4.4	3.6	〃
21	〃	〃	10.2	4.1	3.0	・墨書
22	〃	〃	10.9	4.8	4.0	〃
23	〃	〃	10.2	4.1	3.5	〃
24	〃	〃	11.5	4.8	3.6	〃
25	〃	〃	11.3	5.0	3.1	〃
26	〃	〃	11.5	5.6	3.3	〃
27	〃	〃	11.1	4.6	3.3	〃
28	〃	〃	12.4	5.3	3.7	〃
29	土師	坏	11.7	4.3	3.4	ロクロ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	高さ	器高	
30	土師	坏	10.0	3.6	3.3	※
31	※	※	11.3	4.3	3.6	※
32	※	※	11.3	4.2	3.3	※
33	※	※	10.8	5.0	3.5	※
34	※	※	15.7	6.5	4.2	※
35	灰釉	皿	14.1	6.4	3.2	※・つけ掛け
36	※	※	12.3	7.1	3.2	※・※
37	※	※	11.9	6.0	2.4	※・※
38	※		17.4	8.6	6.7	※・※
39	須恵	壺	13.8			※
40	土師	甕	22.7			※
41	※	碗	12.2	5.9	4.5	※・黒色処理
42	※	※	7.1			※・※
43	※	※	13.9	7.6	6.1	※・※
21号住居址 (133図)						
1	土師	坏	15.4	5.8	5.0	ロクロ
2	※	甕	21.6			※
3	※	鉢	34.2			※・タタキ
4	須恵	甕	18.0			※・※
24号住居址 (135図)						
1	土師	甕	6.8			ロクロ
25号住居址 (137図)						
1	土師	碗	14.4	7.3	6.7	ロクロ・黒色処理
26号住居址 (139図)						
1	須恵	甕	26.8			ロクロ
2	灰釉	碗	6.4			※
27号住居址 (141図)						
1	土師	坏	11.9	5.1	3.4	ロクロ
2	※	※	10.9	5.5	3.5	※
3	※	※	5.6			※
31号住居址 (143図)						
1	土師	坏	12.5	5.4	3.2	ロクロ・黒色処理
2	※	甕	23.8			※
34号住居址 (145図)						
1	土師	坏	12.4	5.3	3.2	ロクロ・ミガキ
2	※	※	11.9	4.8	3.5	※・黒色処理

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	高さ	器高	
3	土師	坏	11.2	4.7	3.1	ロクロ・ミガキ
4	※	※	13.2			※・黒色処理
5	※	碗	11.2	5.7	3.9	ミガキ・内外黒色処理
6	※	※	14.8	7.5	5.0	ロクロ・黒色処理
7	※	※	15.8			※・ミガキ
40号住居址 (147図)						
1	土師	坏	8.8	4.6	2.7	ロクロ
2	※	※	9.0	4.2	2.3	※
3	※	※	13.7	6.0	3.5	※・ミガキ
4	※	※	15.0	6.7	4.3	※・※
41号住居址 (150図)						
1	須恵	坏	13.8	6.0	3.4	ロクロ
2	※	※	15.4	6.0	4.0	※
3	※	高台付坏	16.3	12.4	3.7	※
4	土師	甕	12.2	6.8	12.2	※
43号住居址 (152図)						
1	土師	碗	13.7			ロクロ・黒色処理
2	※	坏	9.7	5.1	2.4	※
3	灰釉	鉢	26.4			※・ケズリ
45号住居址 (154図)						
1	須恵	坏	12.5	6.3	3.7	※
2	※	※	13.0	7.0	3.9	※
3	土師	碗	10.0	6.6	4.0	※・黒色処理
4	※	鉢	12.2			※
5	※	甕	20.2			ヨコケズリ
6	※	※	23.4			ロクロ・タテケズリ・ハケ
7	須恵	※	25.2			※・タタキ
49号住居址 (156図)						
1	土師	坏	8.0			ロクロ
2	須恵	※	7.5			※
3	※	甕	10.5			※
52号住居址 (160図)						
1	須恵	坏	12.5	6.0	4.5	ロクロ
2	土師	※	15.0	5.4	5.1	※・黒色処理
54号住居址 (162・163図)						
1	土師	坏	10.9	5.2	2.8	ロクロ

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	口径	器高	
2	土師	坏	10.8	4.6	3.0	口ク口
3	"	"	10.4	3.4	2.9	"
4	"	"	10.2	3.7	3.2	"
5	"	"	10.6	4.4	3.6	"
6	"	"	10.9	4.5	3.5	"
7	"	"	10.5	4.8	3.3	"
8	"	"	10.7	5.0	3.1	"
9	"	"	11.1	5.2	3.2	"
10	"	"	10.9	4.5	3.3	"
11	"	"	11.1	4.7	2.7	"
12	"	"	10.6	4.4	2.5	"
13	"	"	11.3	4.4	2.9	"
14	"	"	10.4	3.9	3.5	"
15	"	"	11.0	4.5	3.0	"
16	"	"	10.1	3.7	3.4	"
17	"	"	10.6	3.2	3.0	"・柱状高台
18	"	"	10.0	4.7	2.3	"
19	"	"	11.0	5.1	3.6	"
20	"	"	10.6	5.6	2.5	"
21	"	"	10.1	5.1	2.5	"
22	"	"	11.0	5.1	2.6	"
23	"	"	10.0	4.3	2.6	"
24	"	"	10.6	4.8	2.7	"
25	"	"	10.8	4.5	2.8	"
26	"	"	10.0	4.6	2.8	"
27	"	"	10.9	4.9	3.3	"
28	"	"	10.8	4.2	3.4	"
29	"	"	11.8	6.2	3.4	"
30	"	"	10.3	4.6	3.2	"
31	"	"	10.8	4.5	2.7	"
32	"	"	10.3	4.6	2.2	"・柱状高台
33	"	"	11.0	4.4	3.1	"
34	"	"	10.7	4.0	3.2	"
35	"	"	10.8	4.0	2.9	"
36	"	"	11.0	4.0	3.6	"
37	"	"	10.4	4.2	3.3	"

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	口径	器高	
38	土師	坏	11.2	5.2	3.1	口ク口
39	"	"	10.0	4.0	3.0	"
40	"	"	10.3	4.4	3.0	"
41	"	"	10.5	4.7	2.8	"
42	"	"	10.9	3.4	3.3	"
43	"	碗	12.7	6.9	4.8	"・黒色処理・暗文
44	"	坏	13.4	5.4	4.1	"・ミガキ
45	"	"	13.5	5.5	5.0	"・黒色処理
46	"	"	12.0	4.0	4.2	"・ミガキ
47	"	"	13.2	5.4	4.0	"・"
48	"	"	13.5	5.5	4.4	"
49	"	碗	15.8	7.0	6.3	"・黒色処理
50	"	"	13.8	7.3	5.5	"・"
51	"	"	13.9	6.9	6.0	"・"
52	"	"	15.3			"・"
53	"	"	14.3			"・"
54	"	"	14.8			"・"
55	"	"	14.8	7.6	5.8	"・高脚
56	"	"	14.0	7.4	5.1	"・"
57	"	"	15.4	6.9	5.5	"・"
58	"	"	13.4	7.6	5.6	"・"
59	"	"	14.0	7.5	5.0	"・"
60	"	"	14.8	8.2	5.8	"・"
61	"	"	14.1	7.0	4.9	"・"
62	"	"	15.0	7.2	5.1	"・"
63	"	"	17.1	7.8	5.6	"・"
64	"	"	14.2			"・"
65	"	"	14.5	7.2	5.2	"・"
66	"	"	14.4	8.2	5.3	"・"
67	"	"	15.2			"・"
68	"	"	13.8	7.2	5.0	"・"
69	灰胎	皿	12.3	6.2	2.4	"・つけ掛け
70	"	"	13.2	7.3	2.4	"・"
71	須恵	坏	8.0			"
72	"	"	14.9			"
73	灰胎	細口瓶	11.7	8.6	21.2	"

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	高さ	
74	土師	羽釜	24.6			ナデ
75	〃	〃	21.8			〃
76	〃	〃	19.7			〃
56号住居址 (164図)						
1	須恵	蓋	17.9			ロクロ
2	土師	坏		4.6		〃・黒色処理
57号住居址 (167図)						
1	須恵	坏	18.6	6.3	4.3	ロクロ
2	〃	〃	12.4	7.2	3.4	〃
3	〃	〃	13.3	5.9	3.8	〃
4	土師	〃	15.2	7.0	5.0	〃・黒色処理
5	〃	甕	15.7			〃・ハケ
64号住居址 (171図)						
1	須恵	蓋	13.4			ロクロ・ミガキ
2	土師	坏	11.9	4.7	3.2	〃・〃
3	〃	〃	12.1	4.7	3.2	〃・〃
4	〃	〃	12.5	5.1	3.2	〃・〃
5	〃	〃	12.1	4.3	3.5	〃・〃
6	〃	〃	11.5	4.1	2.6	〃・〃
7	〃	〃	11.9	5.6	3.5	〃・〃
8	〃	〃	12.9	4.9	3.5	〃・〃
9	〃	埴	15.0	6.3	5.6	〃・黒色処理
10	〃	〃	14.8	6.5	6.0	〃・ミガキ・高脚
11	〃	〃	15.6			〃・ナデ・〃
12	須恵	坏	14.5	6.3	3.9	〃
13	〃	〃	12.5	6.0	3.8	〃
14	〃	〃	12.8	6.0	3.5	〃
15	〃	〃	13.5	6.0	3.5	〃
16	〃	〃	12.8	5.6	4.2	〃
17	土師	甕	22.4			〃・タテケズリ
18	〃	〃	26.2			〃・〃・ハケ
19	〃	〃	24.2			〃
20	〃	〃	17.8			〃・〃
65号住居址 (169図)						
1	土師	埴	13.8			ロクロ・黒色処理

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	高さ	
67号住居址 (173図)						
1	須恵	坏	12.0			ロクロ
2	土師	甕	27.4			〃
69号住居址 (174図)						
1	土師	羽釜	18.4			ナデ
90号住居址 (179図)						
1	土師	甕	12.2			ココケズリ・ナデ
2	〃	〃	18.8			タテケズリ・ハケ
102号住居址 (182図)						
1	土師	坏	13.0	5.0	4.9	ロクロ・黒色処理
2	〃	〃	12.1			〃・ミガキ・墨書
3	〃	〃	11.8	5.6	4.2	〃・黒色処理
4	〃	〃	13.7	7.4	4.8	〃・ミガキ
5	須恵	〃	12.6	6.0	4.1	〃・墨書
6	土師	甕	22.8			〃・ナデ
7	〃	〃	22.6			〃・タテケズリ・ハケ
1号土坑 (187図)						
1	土師	坏	12.2	4.8	4.2	ロクロ・黒色処理
2	〃	〃	11.8	5.2	4.1	〃・〃
3	〃	〃	11.6	5.4	4.3	〃・〃
4	須恵	〃	13.0	5.0	4.2	〃
5	〃	〃	12.9	5.0	4.1	〃
2号土坑 (187図)						
6	土師	坏	11.3	4.6	3.5	ロクロ
7	〃	〃	10.5	4.5	3.0	〃
8	〃	埴	7.5			〃
9	〃	三足鉢				ミガキ・黒色処理
10	〃	甕	5.2			ロクロ
6号土坑 (187図)						
11	土師	埴	13.8			ロクロ
12	灰釉	〃		6.0		〃
13	土師	土鍾				ナデ
7号土坑 (187図)						
14	土師	埴	14.5	7.4	5.4	ロクロ
15	灰釉	〃	14.2			〃
16	〃	〃		7.2		〃

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
9号土坑 (187図)						
19	須恵	蓋				ロクロ
20	〃	坏	13.2	6.0	4.1	〃
21	〃	〃	12.5	5.2	3.2	〃
22	〃	〃	12.5	6.6	3.7	〃
23	〃	〃	13.0	5.3	4.1	〃
24	〃	〃	15.0			〃
25	土師	〃	15.5	9.0	3.7	〃・黒色処理
13号土坑 (187図)						
26	須恵	蓋	16.5			ロクロ
27	〃	〃	13.5			〃
28	〃	〃	16.3			〃
29	〃	坏	12.6	6.8	3.7	〃
30	〃	〃	12.0	5.7	4.0	〃
31	〃	〃	13.6	7.0	3.9	〃
32	〃	〃	12.9	6.3	3.8	〃
33	〃	〃	12.8	6.8	4.3	〃
34	〃	〃	12.8	6.9	4.5	〃
35	〃	〃	13.4	7.3	4.2	〃
36	土師	鉢	20.7			〃・黒色処理
37	〃	甕	16.7			〃・ナデ
38	〃	〃	18.3			〃・〃
15号土坑 (187図)						
17	土師	坏	10.0			ロクロ
2号溝址 (187図)						
18	土師	坏	12.2	3.8	3.0	ロクロ

中世遺構出土遺物

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
12号土坑 (190図)						
1	黄瀬戸	埴	15.3			ロクロ・ケズリ
19号土坑 (192図)						
1	青磁	折縁坏	12.9			
2	珠洲	描鉢	11.2			
3	〃	〃				
4	〃	〃				

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
14号溝址 (187図)						
39	須恵	坏	12.0	5.8	3.9	ロクロ
40	〃	〃	12.0	4.8	3.9	〃
41	〃	高台付坏	16.9	9.9	6.5	〃
42	〃	甕	16.8			〃・タタキ
ピット群10 (187図)						
43	須恵	蓋	13.4		2.4	ロクロ・ケズリ
44	〃	高台付坏	12.6	9.1	4.2	〃
検出面 (188図)						
1	土師	坏	9.8	4.2	2.7	ロクロ
2	〃	〃	10.8	4.8	3.2	〃
3	〃	〃	12.8	5.0	3.4	〃
4	〃	〃	15.2	5.8	5.1	〃・黒色処理
5	土師	坏	13.0	7.2	4.8	〃・〃
6	〃	皿	14.6	7.8	4.4	〃
7	〃	碗	10.7	5.5	4.4	〃・〃
8	灰釉	〃	10.0	5.4	3.5	〃
9	土師	坏	12.6	6.7	3.5	〃・〃
10	〃	〃	12.4	5.5	3.4	〃
11	須恵	〃	12.5	7.2	4.4	〃
12	〃	〃	12.5	6.2	3.6	〃
13	〃	〃	13.0	7.2	3.5	〃
14	土師	片口鉢	23.4			〃・ミガキ
15	須恵	甕	19.6			〃・タタキ
16	灰釉	瓶	16.9			〃

番号	種別	器種	法量 (cm)			調整等
			口径	底径	器高	
26号土坑 (194図)						
1	珠洲	描鉢	34.0			ロクロ
2	土師	土器皿	8.1	7.0	1.3	ナデ
3	〃	坏	12.9	5.4	3.5	ロクロ
4	〃	甕	22.8			〃・タテケズリ・ハケ
5	〃	〃	16.0			〃
6	〃	〃	4.5			〃・ケズリ

Ⅳ 結 語

田中沖遺跡は犀川の古分流域を挟んで微高地上に展開する古墳時代から平安時代にかけての複合集落遺跡であることが明らかになった。特に田中沖遺跡Ⅱ地点は多くの遺構が重複関係にあり、その密集度は千曲川自然堤防上の遺跡群に匹敵する程である。それ故に当遺跡の持つ意味は大きく、500余基が群集する大室古墳群成立の背景及び古代史記録を裏付ける資料を提供している。

古墳時代 田中沖遺跡Ⅰ・Ⅱの調査を通じ、多くの遺構が検出されているが、田中沖遺跡Ⅰで認められた第2様式末(5世紀末)の遺構が存在しない。主体は第3様式後半(6世紀末～7世紀)のものである。調査地に於ける占地はA・B調査区の西側、G～I調査区に密集して認められ、重複関係にあるものが多いが土器に於ける年代差をそれ程感じさせない。古い要素を有する土器は、4号・36号・51号住居址の壺形土器、66号・79号住居址の球形甕、76号住居址の高坏がある。これらはヘラミガキが多用される。壺・高坏は第2様式末、甕は第3様式前半にその主体があるものと考えられる。これに対し後半に位置付くものには、坏が扁平化の傾向にあり、平底気味になる、高坏は成形時の稜を残さず丸味をもって仕上げ、脚部の器高を減じ単純にラッパ状に外開する器形になる。調整はヘラミガキを基本とし、内面黒色処理されるものが多い。壺形の球形甕のものが甕を消し、口縁部に最大径を有するもの、体部に最大径があっても口縁部径とそれ程差がない長胴化したものが主流を占める。調整はハケナデとヘラナデによるが、後者へ移行する傾向にある。須恵器の出土も若干ながら認められ、7世紀に比定されるものである。20号・79号・96号住居址の坏は6世紀代須恵器の模倣である。特殊な器形に3号・44号住居址出土の筒形土製品とも呼ぶべき土器があり、44号住居址のものは底部がない。田中沖遺跡Ⅰでも出土しており、カマド周辺からの検出である点共通している。8号住居址の坏の内面には環状把手が付される。4号・28号住居址からは器台と推定される環状の土製品が出土している。20号・58号住居址の坏には高台が付されこの器種では初見的なものであろう。

住居址はカマド・焼土等が確認されず、また柱穴等の小屋組施設が検出されず住居施設としての利用を積極的に裏付けるものが欠ける遺構が少なくない。16号住居址のように一拓遺物の出土、カマドの存在が明瞭なのに方形配列の柱穴が確認できない点を考慮すれば、一概に住居でないとは言いが切れない。規模は一辺3m代のものから7mを超えるものまで大小様々であるが、5m代のものを標準とする。形態も不整(長)方形のものが多く定形化しない。掘り込みが砂質土であるため崩落復旧又は拡張行為の結果とも考えられる。主(長)軸は遺跡の西方にあたる微高地上部のA・B・E調査区ではやや東に振るものが多く、その他の調査区では西に振る傾向にあり、北壁中央付近にカマドを構築する。ただし8号・38号・88号住居址では東壁にある。これらの事象は時間差によるものか又は占地に関係あるものかは今後の検討課題である。

田中沖遺跡Ⅱの発掘調査は破壊が懸念される道路敷部4100㎡の調査地から49軒の住居形態遺構が検出され、全遺跡内の総数はこの数倍以上に及ぶものと推定される。大室古墳群は5世紀中葉以降7世紀末葉に至る時間帯の中で形成されたものと考えられており、従来大室牧経営の関連の中からその成立を推定されてきた。確かに本遺跡の調査所見から見る限り、少なくとも5世紀末葉頃から当地域の開発が行なわれた可能性は強く、5世紀代・6世紀前半の古墳には朝鮮半島系の墓制の系譜を引く積石塚・合掌形石室の存在等から牧場経営者を主とする奥津城とも考えられようが、6世紀後半以降の爆発的な古墳構築の背景を考える時、これだけの考え方で説得力に乏しい。川中島扇状地に於る本格的な発掘調査は本遺跡が唯一のものであり、早急な結論は危険性を含むが、後期後半の古墳築造と本遺跡住居址群の成立と軌を一にしている点を重視したい。即ち川中島扇状地の開発が本

格的に展開するのは6世紀後半以降であり、この生産力を背景に人口の増加と合い、古墳群の成立を見たのではなかろうか。本遺跡の大宝古墳群の対象地は、遠望できる北谷支群・金井山支群に求める。

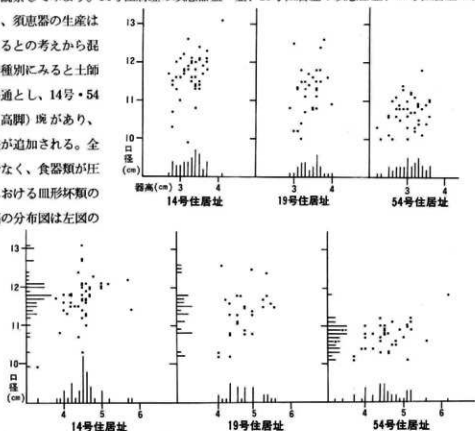
奈良時代 他の遺跡同様遺構数は少なく、7軒確認したにすぎない。B・E・G地区に散在する。形態は方形のものが多く、一辺3m～5m代の規模になる。カマドも不明なものが多いが、80号住居址では北壁に構築され、壁外へ突出する形態のものである。この形態は該期の遺構がまとまって検出されている塩崎遺跡群塩崎小学校地点でも認められており、奈良時代及び前後に普及するものとも考えられる。資料の増加を待ちたい。

上器での特色は須恵器製品が増加し、坏類が主流を占める。ロクロ調整で、ロクロからの切離はヘラによっており、回転ヘラケズリ技法も多用される。甕は体部が直線的で長胴化し、口縁部に最大径を有するものが多い。外面の調整はハケ及びヘラナデである。

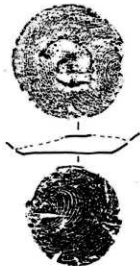
平安時代 B・C・E地区で集中的に検出され、G・I地区では散見する程度で、遺跡西側に展開する。形態は古墳時代と同様に不整形なものも多く、また一辺の規模が3m代～4m代に主流があるが、2m代・8m代のものもあり規模においても一様ではない。カマドの位置は壁中央、やや隅より、隅に構築され、また長軸方位のばらつきが目立つ。形態は残存状況から推定すると、ほとんどが石芯両袖形である。カマドの位置は中央から隅へ移行する時間経過が想定されているが、遺物量が少なく、この傾向を土器から追うことができないのが残念である。中でも第5様式後半から末葉、11世紀代に比定される遺構・遺物に見るべきものがある。特に14号・19号・54号住居址は多量の皿形坏を主体とする遺物群が出土しており、大形の住居址の部類に属し、共に隅丸長方形形態を呈し、カマドの位置が南東隅付近に構築されていたものと推定される等々共通する部分が多い。14号住居址では住居址内上土から、54号住居址はカマド周辺・東壁派いから集中出土するのに対し、19号住居址はカマド周辺に幾分多かったものの遺構全面に認められた。掘り込みは54号住居址は浅く14cmにすぎないが、14号住居址27cm・19号住居址47(+21)cmと深いという相違点がある。

次に前記3軒の遺物を観察してみよう。14号住居址の須恵器蓋・壺、19号住居址の須恵器壺、54号住居址の須恵器坏は破片出土であり、須恵器の生産は10世紀初頭頃終焉を迎えるとの考えから混入品の可能性が高い。器種別にみると土師器坏・碗、灰釉陶器を共通とし、14号・54号住居址には足高高台（高脚）碗があり、54号住居址では更に羽釜が追加される。全般的にみると煮沸具が少なく、食器類が圧倒的に多い。各住居址における皿形坏類の口径・底径、口径・器高の分布図は左図のとおりである。14号住居址は口径11.3cm～12.1cmの固体数が最も多く、また底径においても3.8～5cm間に最も密集する。両者とも他の住居址よりも分布間隔が狭く、大きな数値

14号住居址は口径11.3cm～12.1cmの固体数が最も多く、また底径においても3.8～5cm間に最も密集する。両者とも他の住居址よりも分布間隔が狭く、大きな数値



になる。器高は2.7cm～3.7cm間に1点を除きおさまる。19号住居址は中間的分布を示し、口径は10.8cm～11.8cm、底径4.0～5.6cm、器高2.9cm～4cm間に主体があり、分布範囲が広くなり平均化する傾向にある。54号住居址は口径が更に小さくなり10.1cm～11.2cm範囲にほぼおさまり、底径は3.2cm～5.2cm、器高も2.2cm～3.6cmと幅広になり、数値も小さくなる。口径は14号・19号・54号住居址順に数値を減じて小さくなり、底径においては14号住居址と19号住居址は平均値において24.5cmと同数値であるが密集度・数値幅が異なる。54号住居址は更に小さな底部になる。器高は14号住居址が19号住居址より低い数値範囲に及ぶが平均値においてはほぼ同数値になる。この器種は時間の変化とともに口径が小さくなり、扁平化し、やがて中世のカワラケ（土師質土器皿）への変化が考えられている。これを援用すれば14号→19号→54号住居址へと時間的推移が考えられる。ただ19号住居址において足高高台が付される皿形を呈する函の出土がない点、気になる所である。羽釜も54号住居址のみに認められ、これも他の住居址段階の時期に存在しないのか検討の必要がある。灰釉陶器の出土が多く全て東濃系のもので推定する。近年、この遺跡周辺でこのようなあり方を示す遺跡が確認されつつあり、長野市が調査したものに屋地遺跡・南宮遺跡等がある。これらの調査成果と合せて検討する必要がある。もう一つ該期の土器成形に係る問題を提起する土器を右上図に示した。102号住居址から出土したもので、上下両面に回転斜切り痕を残すもので、「底部柱状づくり」によっているものと思われる。この手のものは屋地遺跡でも2点実見した記憶がある。54号住居址出土遺物の中にも同離痕の糸幅が異なるものこの技法により成形されたと思われる土器片を2点抽出した。しかしこの技法が本来の目的である底径の同一化と製品の規格化を目指すものであれば、54号住居址の坯の口径・底径の分布範囲が広すぎる。資料の増加を待ちたい。



102号住居址出土坯底部(1:2)

10世紀代は歴史的環境で記載したように川中島扇状地には斗女(とめ)・池郷(いけ)・氷鉋(ひがな)の3郷が存在していたことは「和名抄」に見え、「延喜式内社」に布施神社・氷鉋斗笠神社・願気神社がある。この事実はいかばかりの人口と生産力が高かったことをうかがわせる。平安時代末には伊勢神宮領である藤長御厨・富部御厨・布施御厨へと転換する。田中沖遺跡におけるこれらへの位置付けは、池郷郷に属し、願気神社を氏神にしていた地域と考えられ、後に戸部を中心とした富部御厨に編入されたであろうと推定する。14号・19号・54号住居址は煮沸具が少なく食器類が多いことは先に記した。通常的生活遣構と趣きを異にしており、集会場の性格を強調しているように思える。御厨という荘園化の中で、更に解体期に向けて在地豪族とそれを取りまく集団の結末の場と見るのは早計であろうか。特に54号住居址の八稜鏡・馬具の出土は豪族の存在を裏付けているように思える。19号住居址の掘り込みも二重構造になっており、特異なものである点注目される。

中世 この時期のものは土坑4基検出したにすぎない。このうち10号・26号土坑は円形もしくは隅丸方形を呈するものと思われ、26号土坑は深さ1.6mに及ぶ、19号土坑は下層の土が上部を覆っており明らかに埋戻されている。用途不明である。出土遺物は少なく、龍泉窯系青磁・珠州系磁鉢・土師質土器皿の小破片が出土しているにすぎない。

以上時代毎に目につくものを記載したが、遺跡の一部を垣間みただけで占墳時代～平安時代そして中世への流れの中で川中島扇状地開発過程、歴史事象との接点に僅かではあるが触れたように思う。この地も高速交通網に伴う開発、オリンピック関連事業も予定されており、近い将来遺跡数も増加し益々その内容が明らかになるものと期待する。



10-1



10-2



10-5



14-3



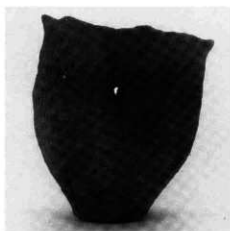
11-4



14-9



18-3



14-11



18-2



16-1

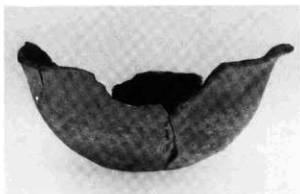


16-2



16-3

2 (10-1・2-5)、3 (11-4)、4 (14-3・9・11)、7 (16-1~3)、8 (18-2・3) 号住居址



22-2



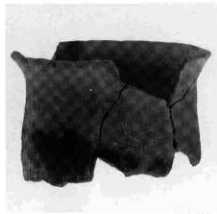
22-3



22-5



22-7



22-8



24-4



29-1



29-2



24-6



28-1



26-2



35-1

16 (22-2・3・5・7・8)、20 (24-4・6)、28 (28-1)、32 (29-1・2) 33(35-1) 号住居址



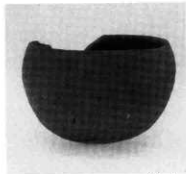
36-1



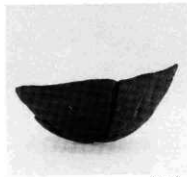
36-3



90-9



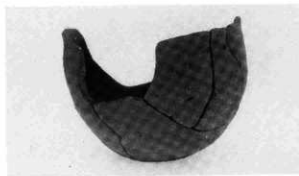
38-1



38-2



38-4



38-5



39-1



42-3

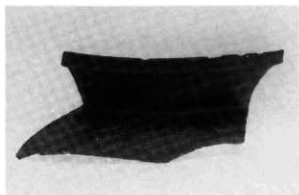


44-2

38 (36-1·3)、44 (38-1·2·4·5)、51 (39-1)、55 (42-3)、58 (44-2) 号住居址、5号土坑 (90-9)



46-1



46-3



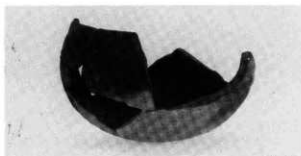
46-2



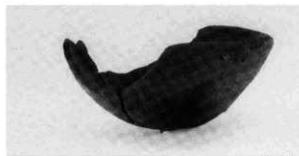
49-2



49-b



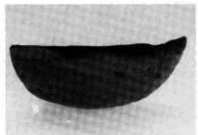
50-1



52-2



50-2



70-2



70-3



70-6

61 (46-1~3)、66 (49-2・6)、72 (50-12)、73 (52-2)、86 (70-2・3・6) 男住居址



59-4



59-5



63-8



63-4



63-5



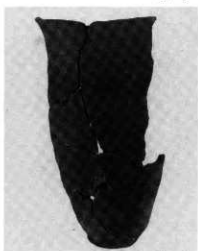
63-6



66-1



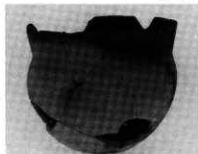
81-1



81-2



83-6

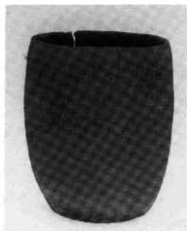


83-2



83-4

77 (59-4・5)、79 (63-4~8)、84 (66-1)、93 (81-1・2)、94 (83-2・4) 号住居址



83-5



83-8



84-8



99-3



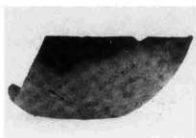
99-4



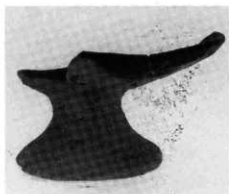
99-5



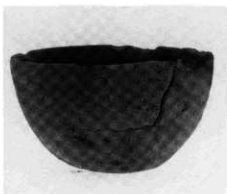
99-8



102-2



104-5



104-7



104-3

94 (83-5 + 8)、96 (84-8)、42 (99-3 ~ 5 + 8)、59 (102-2)、68 (104-3 + 5 + 7) 号住居址



116-1



116-2



116-3



116-4



116-5



121-1



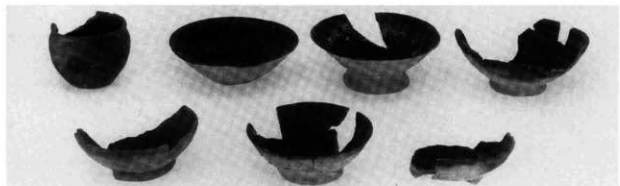
121-3



121-7

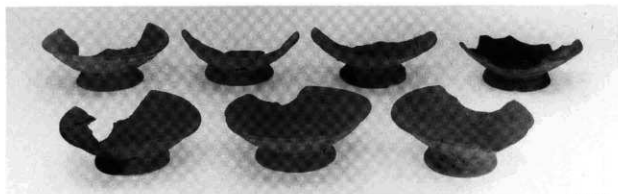


125-126

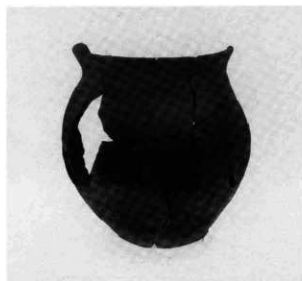


125-126

9 (116-1~5)、12 (121-1+3+7)、14 (125-126) 号住居址



125 · 126



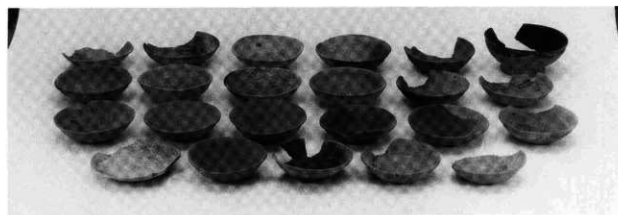
125-46



125-45



131-40



131



133-1



137-1

14 (125 · 126、125-46)、15 (125-45)、19 (131)、21 (133-1)、25 (133-1) 号住居址



141-1



141-2



145-1



145-5



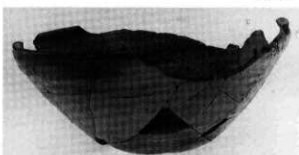
145-6



145-7



152-2



152-3



154-6



163-76



163-73

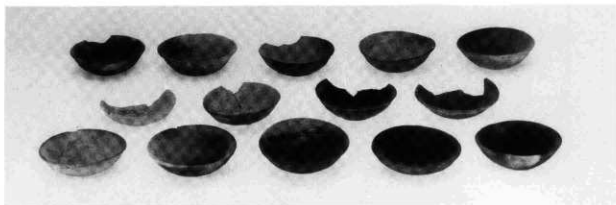


160-2

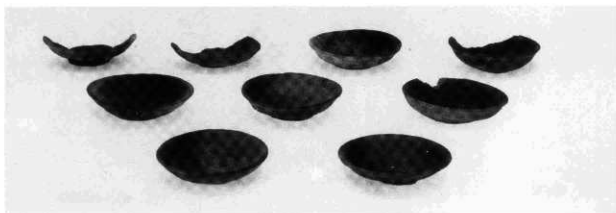


163-69·70

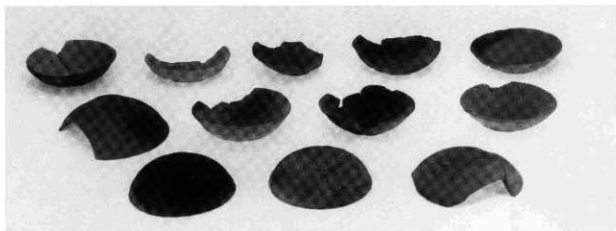
27 (141-1·2)、34 (145-1·5·6·7)、43 (152-2·3)、45 (154-6)、52 (160-2)、54 (163) 号住居址



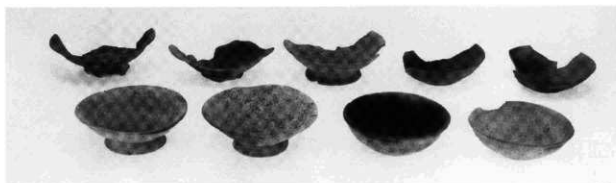
162



162



162



163

54 (162・163) 号住居址



167-3



167-4



171-5



171-7



171-10



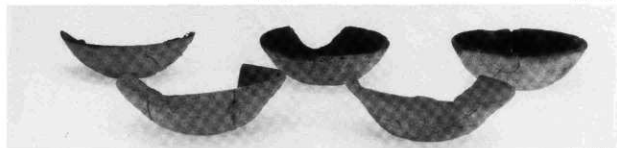
171-11



171-12



171-16



1号土坑



2号土坑



7号土坑



9号土坑

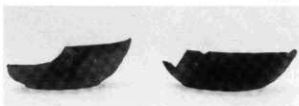
57 (167-3·4)、64 (171-5·7·10·11·12·16)、1·2·7·9号土坑



4号溝



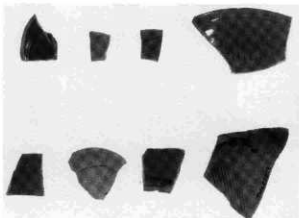
14号溝



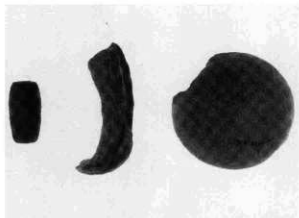
15号溝



ピット群10



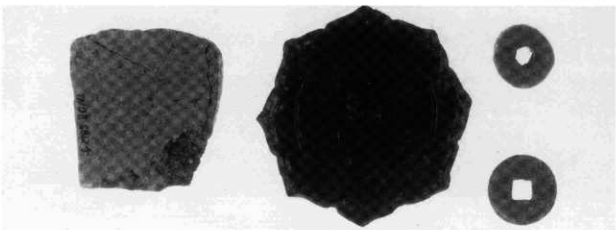
土坑出土中世遺物



土鏝、埴輪、環のヘラ記号



検出面の土器



砥石、八稜鏡、土製管玉、古銭